

山口県高等学校文化連盟10周年記念誌

山口県高文連10年の歩み



山口県高等学校文化連盟10周年記念誌

山口県高文連10年の歩み



山口県高等学校総合文化祭<開幕式典>総合開会式



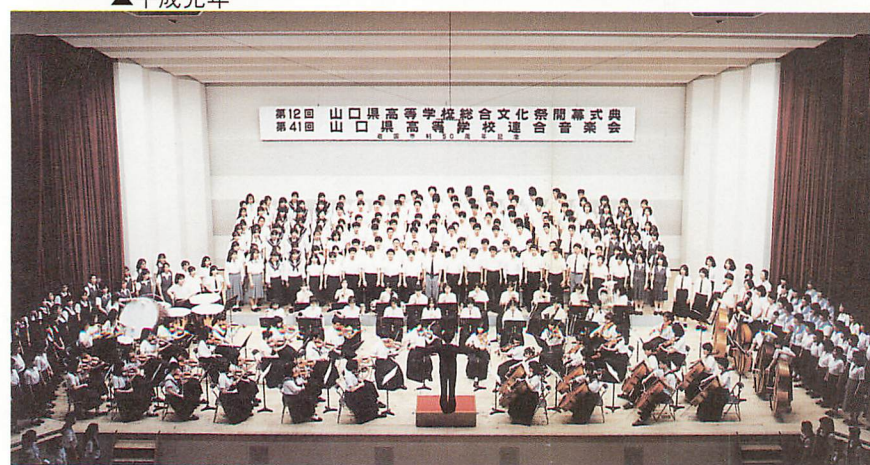
▲昭和62年



▲昭和63年



▲平成元年



▲平成2年



<各部門の活動状況>



マーチングバ



▲平成3年



▲平成 4 年



▲平成 5 年



／ バトントワリング部門



▲平成 6 年



▲平成 7 年



▲平成 8 年

山口県高総文祭＜各部門の活動状況＞

展示関係(美術・工芸・書道・写真)部門



日本音楽部門

▼ (全国大会出場)



吟詠剣詩舞部門 (書道)



囲碁部門



▼表彰



演劇部門

▼ (全国大会出場) ▼



国際交流事業

将棋部門



放送部門



韓国・慶尚南道
親善訪問文化交流演奏会
韓国昌原KBSホール



中国・山東省 平成4年8月18~24日



山口県高文連<自主事業>



フルート (西田直孝トリオ)

演劇



(東京金管五重奏団)
金管合奏



尺八と箏



マリンバ (水野与旨久)



ピアノ (弘中孝)



オペレッタ (木月京子)



オーケストラ
(山口県交響楽団)



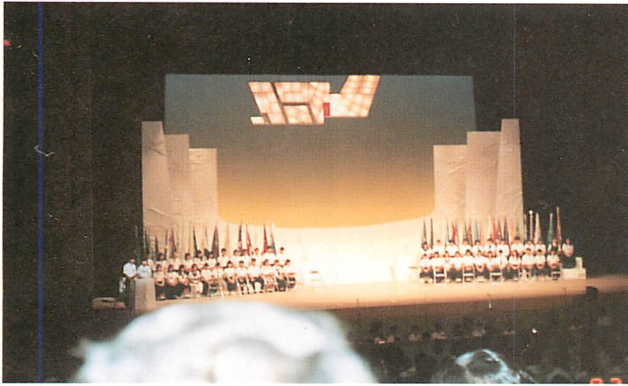
第4回中国地区
高文連会議 (山口市)

▼第6回全国高文連研究大会 (岡山市) ▼



全国高等学校総合文化祭＜総合開会式＞

愛知大会 (昭62年)



沖縄大会 (平4年)



熊本大会 (昭63年)



埼玉大会 (平5年)



岡山大会 (平元年)



愛媛大会 (平6年)



山梨大会 (平2年)



新潟大会 (平7年)



香川大会 (平3年)



北海道大会 (平8年)



県高総文祭ポスター等



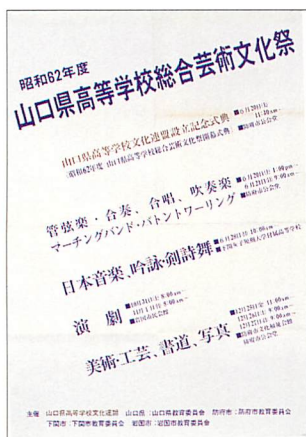
会報



集録誌



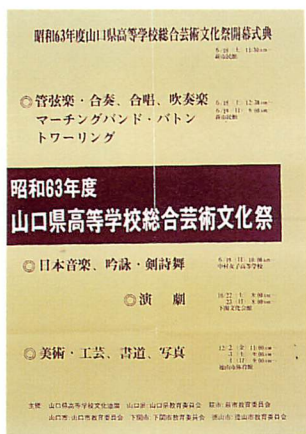
テーマ／山口中央高校・相原福子
イラスト／山口高校・来栖民恵



イラスト／山口高校・美術部



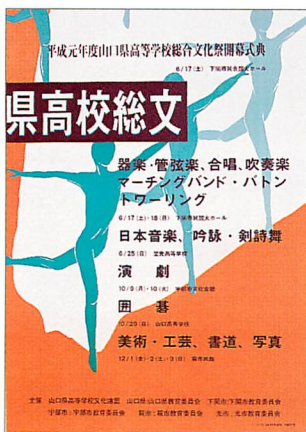
テーマ／宇部高校・佐々木麻弥
イラスト／宇部高校・福山由維



テーマ／宇部女子高校・松本美代子・篠原美紅
イラスト／山口中央高校・曲田 愛



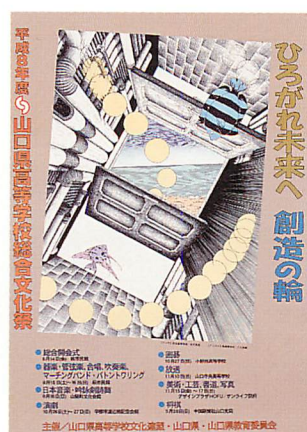
テーマ／下関西高校・生徒会
イラスト／長府高校・白井雅子



イラスト／山口中央高校・大嶋早苗



テーマ／柳井商業高校・浅海昌代
イラスト／徳山高校・池田麻美



テーマ／奈古高校・末武和美
イラスト／萩高校・乙丸奈緒

も く じ

グラビア

あいさつ 山口県高等学校文化連盟会長 森本紘史	1
発刊によせて 山口県教育委員会教育長 上野孝明	2
山口県高文連10年史 前史・結成 昭和62年度～平成8年度	3
思い出 元山口県教育委員会文化課 指導主事 中島 俊泰	12
山口県高文連初代会長 五十部 益一	13
山口県高文連2代会長 繁富 健治	14
山口県高文連3代会長 石井 秀和	15
山口県高文連4代会長 桂 雄三	16
第7回全国高校総合文化祭吟詠剣詩舞部門副会長 児玉 明	17
元山口県高文連事務局長 窪田 恵	19
元山口県高文連書道専門部理事 桑野 忠勝	20
元山口県高文連吹奏楽専門部理事 重広 昭雄	21
県高総文祭／開催記録（第1回～第18回日程・会場）	23
全国高総文祭参加校（山口県）（第1回～第20回）	25
山口県高文連自主事業	29
山口県高等学校文化連盟表彰者	31
全国高校生文芸コンクール入賞者	32

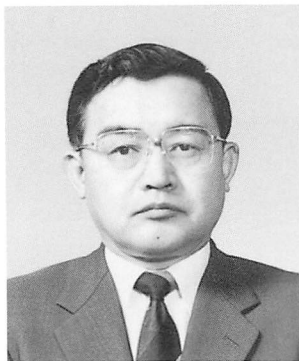
各専門部概要

演劇専門部	33
器楽・管弦楽専門部	35
吹奏楽専門部	37
合唱専門部	39
マーチングバンド・バトントワリング専門部	41
日本音楽専門部	43
吟詠剣詩舞専門部	45
美術・工芸専門部	47
書道専門部	49
写真専門部	51
囲碁専門部	52
放送専門部	54
将棋専門部	56

資料

中国地区高等学校文化連盟規約	58
山口県高等学校文化連盟歴代役員一覧	60

<付録>山口県高等学校 部・クラブ等の動態調査



ごあいさつ

山口県高等学校文化連盟

会長 森本 紘史

昭和六十二年六月、防府市公会堂に県下の高校から集った生徒達の掲げる校旗に囲まれて、山口県高等学校文化連盟が結成されました。当時の会報によると、昭和五十八年に第七回全国高等学校総合文化祭を、昭和六十一年には全国高等学校総合体育大会を山口県が引受け、二つの大きなイベントを県下の高校生が一丸となって成功に導いたことが、本連盟設立の原動力になったと記されています。生徒代表は、「芸術の感動をより多くの人に広げるためにも『高文連』の設立は歴史的意味を持つ。」と、その喜びを現わしています。

一方で、この一年はまさに「産みの苦しみ」の年であったと初代会長が述懐しておられることから、その苦労が並大抵のものでなかったことが窺えます。爾来十年、多くの方々の尊い汗の結晶と先輩諸氏の英知が積み重ねられ、本県高文連が今日まで順調な発展をし、スムーズな運営がなされるまでに至りましたことに対し、衷心より感謝申し上げますと共に、このたび、関係各位のご支援により、十年を節目に本連盟の活動を記す「山口県高文連10年の歩み」を刊行するはこびとなりましたことに、心からお礼を申し上げます。

この十年を振り返りますと、教育界に二つの大きな変化がありました。一つは、臨時教育審議会の示した、個性重視の原則、生涯学習体系への移行、時代の変化への対応を柱とした教育改革推進の流れです。昭和六十二年に教育課程の基準改善が示され、平成八年には、二十一世紀を展望した教育の在り方として、「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことを基本にした中央教育審議会の答申が示されました。

いま一つは、増加の一途を辿っていた生徒数が、平成元年を境に中学卒業生が減少に転じ、高等学校は長期的な生徒の減少期に入ってきたことです。

現在山口県では、「21世紀に向かう夢と智慧を育む学校教育の推進」を基本方針として、生徒一人一人が主体的に人や社会とかわかって、たくましく生きることができる資質や能力を育てるとともに、本人の持つよさや可能性を発揮しながら、自己の夢や希望の実現を図ることができる資質や能力を育成することをめざして教育が進められています。

こうした中で、各学校における文化活動の実践が、生徒数の減少に合わせ、年々厳しい状況になりつつありますが、今日の高文連の基礎を築かれ発展の道を支えられた多くの方々の願いを引き継ぎ、来るべき時代に向けて、高校生一人一人が自立と協同の精神を持つ人として成長していくために、若者の持つみずみずしい感性を活力に、芸術文化活動を活性化していくことは大変重要な意味を持つものと考えています。

山口県では、県高校総合文化祭総合開会式及び音楽四部門発表会を県内全加盟校の御協力により七地区が輪番で実施していますが、全国的にも高い評価をいただいているこの方法を今後とも生かし、各地域の実状にあった形で実施してまいりたいと考えています。そして、郷土文化の理解と伝承をも図り、一人でも多くの生徒が優れた芸術文化活動に接する機会をつくりながら、若者の感性の練磨と創造性の育成に努めてまいりたいと存じます。

終わりに、本連盟が草創期より今日に至るまで多大な御指導御援助を賜りました県教育委員会をはじめ関係各方面の方々に、改めて深甚なる感謝の意を表しますとともに、当誌の編集にあたり御協力をいただきました皆様に厚くお礼を申し上げ、発刊のごあいさつといたします。



発刊によせて

山口県教育委員会

教 育 長 上 野 孝 明

山口県高等学校文化連盟が設立10周年を迎えられ、ここに10周年記念誌を発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

山口県高等学校文化連盟は、県内の高等学校における文化活動の健全な育成を目的に昭和62年度に結成されました。以来、山口県高等学校総合文化祭の開催、全国高等学校総合文化祭への派遣、及び一般の高校生を対象とする音楽や演劇の鑑賞会の実施など、高校生の文化活動振興のために年々充実した活動を積み重ねてこられました。

また、平成2年度には韓国慶尚南道に山口県高等学校文化交流親善訪韓団（合唱・日本音楽）を、平成4年度には中国山東省に山口県高等学校吹奏楽団を派遣し、近隣諸国との交流にも努めてこられました。今日に至るまで、その発展に御尽力をいただきました関係の先生方や生徒諸君に対し、心から敬意を表するとともに厚くお礼申し上げる次第です。

現在、学校教育においては、豊かな心をもった人間の育成や、我が国の文化と伝統の尊重などが強く要請されております。山口県教育委員会でも本県教育の基本目標として「夢と智慧を育む」教育を推進し、それらの実現に向けて努力しているところであります。人類が営々として築いてきた過去の優れた文化は、まさに、人類の智慧の結晶であり、夢を与えてくれるものであります。瑞々しい感性が培われる高校の時期に、この優れた文化と出会い、文化的な活動を通して、自己を磨き、新しい創造への活力を高めていくことは、自らが生きる力を育んでいくことにもなると思うのであります。

21世紀を間近に控え、これからの社会は益々国際化が進展すると思われますが、その国際化の社会においては、自国の文化を愛するとともに、他国の文化を理解し、愛する心が求められてきます。文化活動には、国籍や民族や言葉を超えて、人々が理解し合い、心をつなぎ合うことのできる、重要な役割があるのではないかと思います。若い高校生の豊かな発想とエネルギーを原動力としてつくり出された文化が、山口県から全国へ、そして世界へと発信されることを願っております。

終わりに、この記念誌の発刊を契機に、山口県高等学校文化連盟が益々発展されることを祈念して、お祝いの言葉といたします。

<前 史>

昭和58年 夏

第7回全国高等学校総合文化祭(各部門実行委員会
で組織) 於・山口県(山口市中心に各地で)

<結 成>

昭和62年3月4日

山口県高等学校文化連盟設立準備委員会
(山口中央高校)

設立準備委員名簿

準備委員会

委員長	五十部益一	山口中央高校	校長
委員			
(事務局)	藤山 武	山口中央高校	教諭
(事務局)	甲田 俊夫	山口中央高校	教諭
(事務局)	古屋 元子	山口中央高校	教諭
(吹奏楽)	重広 昭雄	防府高校	教諭
(管弦楽)	松永 忠雄	下関南高校	教諭
(合 唱)	中尾 綾子	宇部中央高校	教諭
(マーチングバンド バトントワリング)	花村 慈照	宇部女子高校	教諭
(演 劇)	西村 司	厚狭高校	教諭
(日本音楽)	中野 靖子	中村女子高校	教諭
(吟詠剣詩舞)	辛嶋 茂樹	下関工業高校	教諭
(美術・工芸)	岸 勤	宇部商業高校	教諭
(書 道)	桑野 忠勝	下関第一高校	教諭
(写 真)	環乃琢司郎	岩国高校	教諭
			以上14名
(事務局)	若 干 名	県文化課職員	

*議 題

- 1.山口県高等学校文化連盟(高文連)の基本的考え方について
 - 2.県高文連規約(案)
 - 3.県高文連一問一答(質疑応答)
 - 4.各校の県高文連会費納入について
 - 5.県高文連年間事業(案)
 - 6.県高文連昭和62年度予算(案)について
 - 7.県高文連設立記念式典のもちかたについて
 - 8.各校の県高文連担当係の設置について
- 以上が協議された。

昭和62年3月5日付け委員長名により各学校長に事務連絡された。

昭和62年度

- 4月1日 山口県高等学校文化連盟設立室開設
(山口県教育庁文化課及び山口中央高校)
- 4月25日 山口県高等学校文化連盟設立準備委員会
(山口中央高校)
- 5月2日 山口県高等学校文化連盟設立記念式典、音楽部門運営委員会 (防府高校)
- 5月8日 山口県高等学校文化連盟(高文連)評議員会で高文連設立決議 (柳井市)
初代会長に五十部益一氏就任
- 5月27日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・青山会館)
- 6月20日 山口県高文連設立記念式典、開幕式典
(防府市公会堂)
- 6月20～21日 第9回山口県高等学校総合芸術文化祭・音楽部門<演劇、管弦楽・合奏、合唱、吹奏楽マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真の10部門ではじまる。> (防府市公会堂)
- 7月14日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)
- 8月4～7日 第11回全国高等学校総合文化祭
(愛知県・名古屋市中心)
- 8月5日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(名古屋市・王山会館)
- 8月4～7日 全国高等学校文化連盟専門部会
(愛知県・名古屋市中心)
- 12月14日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)
- 2月16日 全国高等学校文化連盟理事会
(東京都・東京青山会館)
- 2月22日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)
- *昭和62年度その他事業等
- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等)
 - ・ポスター制作、会報発行(2月27日)
 - ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
 - ・県内全学校数93校、加盟校数91校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養6)

昭和63年度

4月25日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)

[協議題]

- 1. 昭和62年度事業報告・決算報告・監査報告
- 2. 昭和63年度事業計画・予算(案)
- 3. 昭和63年度高文連役員について
- 4. 山口県高等学校総合文化祭並びに開幕式典について
- 5. 昭和63年度全国高等学校総合文化祭の参加状況について
- 6. 高文連の自主事業計画について
- 7. 高文連「旅費支給基準」の改定について
- 8. 高文連専門部会の運営について
- 9. その他

4月30日 山口県高等学校総合芸術文化祭・音楽関係運営委員会 (萩高校)

5月13日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (岩国市)

5月25日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・青山会館)

6月18日 第10回山口県高等学校総合芸術文化祭・開幕式典 (萩市民館)

6月18～19日 第10回山口県高等学校総合芸術文化祭・音楽部門 (萩市民館)

8月3～7日 第12回全国高等学校総合文化祭
(熊本県・熊本市中心)

8月4日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(熊本市水前寺共済会館)

8月3～7日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(熊本県・熊本市中心)

11月7日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)

1月27日 山口県高等学校文化連盟専門部理事会
(山口中央高校)

2月14日 全国高等学校文化連盟理事会
(東京都・青山会館)

2月20日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)

3月27日 第8回器楽管弦楽スプリングコンサート(共催)
(防府市公会堂)

* 昭和63年度その他事業等
・ 高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等)

- ・ ポスター制作、会報発行(1月)
- ・ 各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・ 県内全学校数93校、加盟校数91校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養6)

平成元年度

4月20日 山口県高等学校総合文化祭・準備委員会
(下関南高校)

4月26日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)

[協議題]

- 1. 平成元年度山口県高等学校文化連盟役員の改選について
- 2. 昭和63年度山口県高等学校文化連盟事業報告について
- 3. 昭和63年度山口県高等学校文化連盟決算・監査報告について
- 4. 平成元年度山口県高等学校文化連盟事業計画案について
- 5. 平成元年度山口県高等学校文化連盟予算案について
- 6. 山口県高等学校総合文化文化祭並びに開幕式典について
- 7. 第13回全国高等学校総合文化祭(岡山大会)について
- 8. 平成元年度山口県高等学校文化連盟自主事業について
- 9. 山口県高等学校文化連盟規約改正について
- 10. その他

5月12日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (長門市)
5月24日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・青山会館)

6月17日 第11回山口県高等学校総合芸術文化祭・開幕式典 (下関市民館)

6月17～18日 第11回山口県高等学校総合芸術文化祭・音楽部門 (下関市民館)

7月5日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)

8月2～8日 第13回全国高等学校総合文化祭
(岡山県・岡山市中心)

8月3日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(岡山市 ホテルニューオカヤマ)

10年史

- 8月2～6日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(岡山県・岡山市中心)
- 10月29日 第11回山口県高等学校総合芸術文化祭(囲碁)
(山口高校)
- 11月13日 山口県高等学校文化連盟専門部理事会
(山口中央高校)
- 1月21日 第2回全国高等学校囲碁大会
(名古屋市 日本棋院中部総本部)
- 1月25日 第1回全国高等学校文化連盟研究大会
(東京都 青山会館)
- 2月13日 全国高等学校文化連盟理事会
(東京都 青山会館)
- 2月14日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口高校資料室)
- 3月9日 山口県高等学校文化連盟理事会
(山口中央高校)
- 3月27日 第9回器楽管弦楽スプリングコンサート
(柳井市・サンビームやない)

*平成元年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等)
- ・ポスター制作、会報発行(1月)
- ・集録「高文連」第1号編集
- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
(囲碁部門が加わり11部門、11専門部になる。
管弦楽・合奏部門が器楽・管弦楽部門に改称)
- ・県内全学校数95校、加盟校数91校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養6)

平成2年度

- 4月 第2代会長に繁富健治氏就任
- 4月5日 第12回山口県高等学校総合文化祭・準備委員会
(岩国高校)
- 4月27日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)
- 5月11日 山口県高等学校文化連盟評議員会
(下関市)

[協議題]

- 1.平成2年度山口県高等学校文化連盟役員の異動について
- 2.平成元年度山口県高等学校文化連盟事業報告について
- 3.平成元年度山口県高等学校文化連盟決算・監査報告について

- 4.平成2年度山口県高等学校文化連盟事業計画(案)・予算(案)について
 - 5.平成2年度第12回山口県高等学校総合文化祭計画(案)について
 - 6.平成2年度第14回山口県高等学校総合文化祭(山梨大会)参加校一覧について
 - 7.平成2年度山口県高等学校文化連盟自主事業計画(案)について
 - 8.山口県高等学校文化連盟国際交流事業計画(案)について
 - 9.山口県高等学校文化連盟規約改正について
 - 10.その他
- 5月30日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・青山会館)
- 6月16日 第12回山口県高等学校総合文化祭・開幕式典
(岩国市民会館)
- 6月16～17日 第12回山口県高等学校総合文化祭・音楽部門
(岩国市民会館)
- 7月6日 山口県高文連慶尚南道派遣準備委員会
(山口中央高校)
- 7月18日 第1回高文連国際交流事業実行委員会
(山口中央高校)
- 7月24～28日 山口県国際交流視察団(韓国慶尚南道他)
- 8月1～8日 第14回全国高等学校総合文化祭
(山梨県・甲府市中心)
- 8月2日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(甲府市・シティープラザ紫玉苑)
- 8月1～5日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(山梨県・甲府市中心)
- 8月25～26日 第1回全国高等学校総文化祭優秀校東京公演
(東京都・国立劇場)
- 10月8日 山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)
- 10月8日 第2回高文連国際交流事業実行委員会
(山口中央高校)
- 11月21日 第1回国際交流総務委員会
(山口中央高校)
- 11月30日 第3回高文連国際交流事業実行委員会
(山口中央高校)
- 12月5日 国際交流総務委員会、山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)
- 12月13～16日 慶尚南道事前協議会 (韓国慶尚南道)
- 12月25日 第4回高文連国際交流事業実行委員会
(野田学園高校)
- 1月27日 第3回全国高等学校囲碁大会

(甲府市・山梨県文化会館)

1月25日 第2回全国高文連研究大会

(和歌山県・白浜温泉)

2月5日 山口県高等学校文化連盟理事長会

(山口中央高校)

2月8日 全国高等学校文化連盟理事会

(東京都・青山会館)

2月22日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会

(山口県高文連会費値上げについて協議される。)

(山口中央高校)

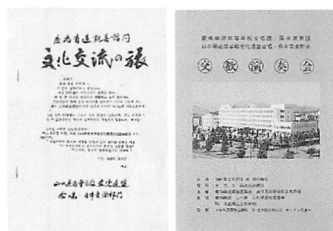
3月22日 山口県高文連慶尚南道派遣団結団式

(教育会館)

3月25～29日 高文連国際交流事業 (韓国慶尚南道)

3月27日 慶尚南道親善訪問文化交流演奏会

(韓国昌原KBSホール)



3月26日 第10回器楽管弦楽スプリングコンサート

(岩国市民会館)

*平成2年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等)
- ・ポスター制作、県総文テーマ公募、会報発行、・集録「高文連」第2号編集
- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・各専門部研修会(県下各地において開催)
- ・県内全学校数95校、加盟校数91校

(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養6)

平成3年度

4月4日 第13回山口県高等学校総合文化祭
(総合開会式・音楽4部門)・第1回準備委員会
(光高校)

4月23日 第13回山口県高等学校総合文化祭
(総合開会式・音楽4部門)・第2回準備委員会
(光高校)

4月26日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)

5月10日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (宇部市)
[協議題]

1.平成3年度山口県高等学校文化連盟役員改選に
ついて

2.平成2年度山口県高等学校文化連盟事業報告に
ついて

3.平成2年度山口県高等学校文化連盟決算・監査
報告について

4.平成3年度山口県高等学校文化連盟事業計画案
について

5.平成3年度山口県高等学校文化連盟予算案につ
いて

6.山口県高等学校総合文化祭並びに総合開会式に
ついて

7.第15回全国高等学校総合文化祭(香川大会)に
ついて

8.平成3年度高文連自主事業について

9.山口県高文連会費の値上げについて

<現行>

高等学校生徒一人当たり1年に

(全日制のみ) 1年次 200円

2、3年次 100円

(定時制、盲、聾、養護学校生徒) 50円

学校負担金(定、盲、聾、養校は除く)

学級数×100円

<改正案>

高等学校生徒一人当たり1年に

(全日制のみ) 1年次 200円

2、3年次 200円

(定時制、盲、聾、養護学校生徒) 50円

学校負担金(定、盲、聾、養校は除く)

学級数×100円

(平成3年度高文連評議員会で、1年次、2年次、3年次と段階値上げで可決。平成4年度から2年次、3年次が段階的に200円になることで承認をうける。)

10.その他

5月29日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・青山会館)

6月13日 第13回山口県高等学校総合文化祭
(総合開会式・音楽4部門)第2回実行委員会
(光高校)

6月14日 第13回山口県高等学校総合文化祭総合開会式
(光市民ホール)

6月15～16日 第13回山口県高校総合文化祭(音楽4部門)
(光市民ホール)

7月12日 第13回山口県高等学校総合文化祭

10年史

(総合開会式・音楽4部門)第3回実行委員会
(光高校)

8月1～4日 第15回全国高校総合文化祭
(香川県・高松市中心)

8月2日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(高松市 ラポールイン・タカマツ)

8月2～4日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(香川県・高松市中心)

8月31～9月1日 第2回全国高等学校総合文化祭優秀
校東京公演 (東京都・国立劇場)

11月11日 山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)

12月17日 全国高校文芸コンクール表彰式
(東京都・青山会館)

1月10日 山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)

1月19日 第4回全国高等学校囲碁大会
(茨城県・筑波大附属駒場高校)

1月23～24日 第3回全国高等学校文化連盟研究大会
(盛岡市・サンセール盛岡)

2月7日 全国高等学校文化連盟理事会
(東京都・青山会館)

2月14日 第1回中国地区高文連関係者(会長・事務局長
行政)合同会議 (広島市・せとうち苑)

[協議題]

- 1.各県高等学校文化連盟の現状と課題
- 2.高等学校(芸術)の活性化について
- 3.その他

2月21日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)

2月25日 国際交流(高校生吹奏楽団山東省派遣)
第1回準備委員会 (防府高校)

3月6日 国際交流(高校生吹奏楽団山東省派遣)
第2回準備委員会 (防府高校)

3月16日 国際交流(高校生吹奏楽団山東省派遣)
第1回実行委員会 (山口中央高校)

3月27日 第11回器楽管弦楽スプリングコンサート
(下関市文化会館)

*平成3年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等)
- ・ポスター制作、県総文テーマ募集、会報発行(12月)、集録「高文連」第3号編集(文化部門)部・クラブ等の調査(10月)
- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・各専門部研修会(県下各地において開催)

・県内全学校数97校、加盟校数93校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養8)

平成4年度

4月 第3代会長に石井秀和氏就任

5月7日 第14回山口県高等学校総合文化祭
(総合開会式・音楽4部門)第1回実行委員会
(徳山高校)

5月8日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (防府市)
[協議題]

- 1.平成4年度山口県高等学校文化連盟役員改選について
- 2.平成3年度山口県高等学校文化連盟事業報告について
- 3.平成3年度山口県高等学校文化連盟決算・監査報告について
- 4.平成4年度山口県高等学校文化連盟事業計画案について
- 5.平成4年度山口県高等学校文化連盟予算案について
- 6.山口県高等学校文化連盟規約及び会計規程の改正について

5月26日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・こまばエミナース)

6月19日 第14回山口県高等学校総合文化祭・総合開
会式 (徳山市文化会館)

6月20～21日 第14回山口県高等学校総合文化祭
〔音楽4部門〕 (徳山市文化会館)

6月26～7月6日 「山口県高等学校吹奏楽団」視察団
訪中 (中国・済南市、泰安市、北京)

7月10日 山東省 第2回実行委員会

7月21日 〔山口県山東省友好協定締結10周年記念事業〕
「山口県高等学校吹奏楽団」結団式
(山口県婦人教育文化会館)

7月31日 山東省 第3回実行委員会
(国立山口徳地少年自然の家)

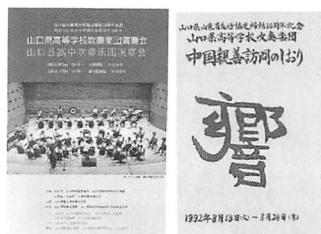
8月3～7日 第16回全国高等学校総合文化祭
(沖縄県・那覇市中心)

8月4日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(宜野湾市・ラグナガーデンホテル)

8月3～7日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(沖縄県・那覇市中心)

8月11日 山東省 第4回実行委員会 (防府西高校)

8月18～24日 〔山口県山東省友好協定締結10周年記念事業〕「山口県高等学校吹奏楽団」訪中
(中国・済南市、泰安市、北京)



8月29～30日 第3回全国高等学校総合文化祭優秀校
東京公演 (東京都・国立劇場)

10月9日 山東省 第5回実行委員会(反省会)

10月15日 第2回中国地区高等学校文化連盟関係者合同
会議 (岡山市・チサンホテル岡山)

[協議題]

1. 中国地区高文連の組織・規約について
2. 中国地区高等学校総合文化祭について
3. 各県高等学校文化連盟の現状と課題
4. その他

(中国地区高等学校文化連盟結成、議決)

11月16日 山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)

1月21～22日 第4回全国高等学校文化連盟研究大会
(長崎市)

1月24日 第5回全国高等学校囲碁大会(沖縄県・那覇市)

2月9日 全国高等学校文化連盟理事会
(東京都目黒区・こまばエミナース)

2月12日 山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口県中央高校)

2月24日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)

3月25日 第12回器楽管弦楽スプリングコンサート
(山口市民会館)

*平成4年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演実施)
- ・山東省派遣「山口県高等学校吹奏楽団」実行委員会(5回)・合同練習会(4回)・結団式
- ・ポスター制作、県総文テーマ募集、会報発行(12月)、集録「高文連」第4号編集
- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・各専門部研修会(県下各地において開催)
- ・県内全学校数96校、加盟校数94校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養9)

平成5年度

4月27日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)

5月7日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (徳山市)
[協議題]

1. 平成5年度山口県高等学校文化連盟役員について
2. 平成4年度山口県高等学校文化連盟事業報告について
3. 平成4年度山口県高等学校文化連盟決算・監査報告について
4. 平成5年度山口県高等学校文化連盟事業計画案について
5. 平成5年度山口県高等学校文化連盟予算案について

5月25日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・こまばエミナース)

6月18日 第15回山口県高等学校総合文化祭・総合開
会式 (山口市民会館)

6月19～20日 第15回山口県高等学校総合文化祭(音楽
部門) (山口市民会館)

6月25日 第3回中国地区高文連関係者(会長・事務局長
行政)合同会議
(広島市・せとうち苑)

[協議題]

1. 中国地区高文連の組織・規約について
2. 中国地区高等学校総合文化祭について
3. 各県高等学校文化連盟の現状と課題
4. その他

8月4～8日 第17回全国高等学校総合文化祭
(埼玉県・浦和市、大宮市中心)

8月5日 全国高等学校文化連盟拡大理事長会
(大宮市 さいたま共済会館)

8月5～8日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(埼玉県・浦和市、大宮市中心)

8月28～29日 第4回全国高等学校総合文化祭優秀校東
京公演 (東京都・国立劇場)

10月26日 山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)

11月5日 全国高等学校臨時評議会
〔全国高等学校文化連盟の社会法人化(案)
可決〕 (東京都・半蔵門会館)

10年史

- 1月20～21日 第5回全国高文連研究大会
(金沢市・ホテル六華苑)
- 1月22～23日 第6回全国高等学校囲碁大会
(埼玉県伊奈町県民活動総合センター)
- 2月14日 全国高等学校連盟理事会
(東京都・青山会館)
- 2月10日 山口県高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)
- 2月22日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)
- 3月29日 第13回器楽管弦楽スプリングコンサート
(防府市公会堂)

*平成5年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等実施)
- ・ポスター制作、県総文テーマ募集、会報発行(12月)、集録「高文連」第5号編集
- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・各専門部研修会(県下各地において開催)
- ・県内全学校数96校、加盟校数94校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養9)

平成6年度

- 4月 第4代会長に桂雄三氏就任
- 4月25日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)
- 5月10日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (柳井市)
[協議題]
- 1.平成6年度山口県高等学校文化連盟役員について
 - 2.平成5年度山口県高等学校文化連盟事業報告について
 - 3.平成5年度山口県高等学校文化連盟決算・監査報告について
 - 4.平成6年度山口県高等学校文化連盟事業計画案について
 - 5.平成6年度山口県高等学校文化連盟会計予算案について
 - 6.山口県高等学校文化連盟規約及び表彰規程の改正について
- 5月24日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都・麻布グリーン会館)
- 6月17日 第16回山口県高等学校総合文化祭・総合開会

- 式 (宇部市・渡辺翁記念会館)
- 6月18～19日 第16回山口県高等学校総合文化祭(音楽関係4部門)
(宇部市・渡辺翁記念会館)
- 6月24日 第4回中国地区高文連関係者合同会議
(山口市・共済苑)
- [協議題]
- 1.第6回全国高等学校文化連盟研究大会(岡山大会)の取り組みについて
 - 2.第22回全国高等学校文化祭(鳥取大会)の協力体制について
 - 3.各県高(芸)文連の現状と課題
 - 4.その他

- 7月8日 平成6年度高校生文化交流協議団事前打ち合わせ会
(山口市・山泉荘)
- 7月18～22日 平成6年度高校生文化交流協議団訪韓
(韓国・昌原他)
- 8月4～8日 第18回全国高等学校総合文化祭
(愛媛県・松山市中心)
- 8月5日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(松山市・にぎたつ会館)
- 8月5～8日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(愛媛県・松山市中心)
- 8月27～28日 第5回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演
(東京都・国立劇場)
- 11月6日 第16回山口県高等学校総合文化祭(放送)
(西京高校)
- 11月14日 山口高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)
- 1月19～20日 第6回全国高等学校文化連盟研究大会
(岡山市・岡山プラザホテル)
- 2月6日 山口高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)
- 2月9日 全国高等学校文化連盟理事会
(東京都・フロラシオン青山)
- 2月22日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)
- 3月(下旬) 第13回器楽管弦楽スプリングコンサート
(サンビームやない)

*平成6年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等実施)
- ・県総文に放送部門が加わり、専門部12部になる
- ・ポスター制作、県総文テーマ募集、
- ・会報発行(12月)、集録「高文連」第5号編集

- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・各専門部研修会(県下各地において開催)
- ・県内全学校数96校、加盟校数94校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養9)

平成7年度

- 4月26日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)
- 5月12日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (岩国市)
[協議題]
1. 平成7年度山口県高等学校文化連盟役員について
 2. 平成6年度山口県高等学校文化連盟事業報告について
 3. 平成6年度山口県高等学校文化連盟決算・監査報告について
 4. 平成7年度山口県高等学校文化連盟事業計画案について
 5. 平成7年度山口県高等学校文化連盟会計予算案について
 6. 山口県高文連会費の値上げについて
(現 行)
高等学校生徒一人当たり1年に
(全日制のみ) 1、2、3年次 200円
(定時制、盲、聾、養護学校生徒) 50円
学校負担金(定、盲、聾、養校は除く)
学級数×100円
(改正案)
高等学校生徒一人当たり1年に
(全日制のみ) 1、2、3年次 350円
(定時制、盲、聾、養護学校生徒) 50円
学校負担金(定、盲、聾、養校は除く)
学級数×100円
(平成7年度高文連評議員会で原案可決、平成8年度から実施。)
- 5月23日 全国高等学校文化連盟評議員会
(東京都 フロラシオン青山)
- 6月16日 第17回山口県高等学校総合文化祭・総合開会式
(下関市民会館)
- 6月17～18日 第17回山口県高等学校総合文化祭
(音楽4部門) (下関市民会館)
- 7月4日 第5回中国地区高文連関係者合同会議
(松江市・サンラポーむらくも)

[協議題]

1. 第22回全国高等学校総合文化祭(平成10年度・鳥取大会)、及びそのリハーサル大会(平成9年度開催)の協力体制について
 2. 高校総合文化祭のPR方法について
 3. 学校教員の地域活動に対する支援について
 4. 高文連活動に対する支援策について
 5. その他
- 8月4～8日 第18回全国高等学校総合文化祭
(新潟県・新潟市中心)
- 8月5日 全国高等学校文化連盟拡大理事会
(新潟市・オークラホテル新潟)
- 8月5～8日 全国高等学校文化連盟各専門部会
(新潟県・新潟市中心)
- 8月26～27日 第6回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演
(東京都・国立劇場)
- 11月13日 山口高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)
- 1月19～20日 第7回全国高等学校文化連盟研究大会
(横浜市・横浜プリンスホテル)
- 2月6日 山口高等学校文化連盟理事長会
(山口中央高校)
- 2月8日 全国高等学校文化連盟理事会
(東京都・フロラシオン青山)
- 2月16日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会
(山口中央高校)
- 3月25日 第14回器楽管弦楽スプリングコンサート
(岩国市民会館)

*平成7年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等実施)
- ・ポスター制作、県総文テーマ募集、会報発行(11月)、集録「高文連」第5号編集、(文化部門)部・クラブ等の調査(5月)
- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・各専門部研修会(県下各地において開催)
- ・県内全学校数96校、加盟校数94校
(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養9)

平成8年度

- 4月 第5代会長に森本紘史氏就任
山口県高等学校文化連盟の所管、教育庁文化課より指導課へ移る。

10年史

4月24日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会

(山口中央高校)

5月10日 山口県高等学校文化連盟評議員会 (萩市)

[協議題]

- 1.平成8年度山口県高等学校文化連盟役員について
- 2.平成7年度山口県高等学校文化連盟事業報告について
- 3.平成7年度山口県高等学校文化連盟決算・監査報告について
- 4.平成8年度山口県高等学校文化連盟事業計画案について
- 5.平成8年度山口県高等学校文化連盟会計予算案について
- 6.山口県高等学校文化連盟規約・諸規程の改正について

5月21日 全国高等学校文化連盟評議員会

(東京都・フロラシオン青山)

5月26日 第18回山口県高等学校総合文化祭(将棋)

(中国新聞山口支社)

6月14日 第18回山口県高等学校総合文化祭・総合開会式

(下関市民会館)

6月15～16日 第18回山口県高等学校総合文化祭・<音楽4部門>

(萩市民館)

7月9日 中国地区高文連関係者合同会議

(鳥取市・白兔会館)

[協議題]

- 1.第22回全国高等学校総合文化祭(鳥取大会)のための平成9年度鳥取県リハーサル大会への協力依頼について
- 2.高等学校における芸術文科系クラブ活動で、未普及部門の育成及び支援策について
- 3.高文連事務担当教諭の負担軽減について
- 4.その他各県高(芸)文連の現状と課題

8月6～10日 第20回全国高等学校総合文化祭

(北海道・札幌市中心)

8月7日 全国高等学校文化連盟拡大理事会

(札幌市・ホテル札幌ガーデンパレス)

8月7～8日 全国高等学校文化連盟各専門部会

(北海道・札幌市中心)

8月29～30日 第7回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演

(東京都・国立劇場)

11月18日 山口高等学校文化連盟理事長会

(山口中央高校)

1月23～24日 第8回全国高等学校文化連盟研究大会

(浜松市・コンコルド浜松)

2月4日 山口高等学校文化連盟理事長会

(山口中央高校)

2月13日 山口県高等学校文化連盟企画運営委員会

(山口中央高校)

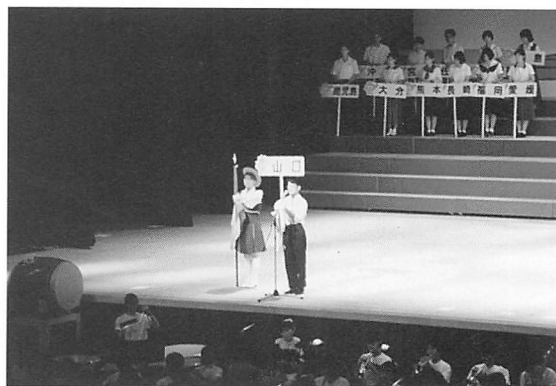
3月25日 第15回器楽管弦楽スプリングコンサート

(山口市民会館)

*平成8年度その他事業等

- ・高文連自主事業(音楽演奏会、巡回演劇公演等実施)
- ・県総文に将棋部門が加わり、専門部13部になる。
- ・ポスター制作、県総文テーマ募集、会報発行(12月)、集録「高文連」第6号編集
- ・各専門部会(部会長校を中心に開催)
- ・各専門部研修会(県下各地において開催)
- ・県内全学校数96校、加盟校数94校

(県立66 私立18 市立1 盲・聾・養9)





～未来を切り開く豊かな感性と創造性を求めて～

山口県教育庁教育企画室

室長補佐 中 島 俊 泰

(元 山口県教育庁文化課指導主事)

山口県高等学校文化連盟が結成10周年をむかえられ、ここに「10周年記念誌」を発刊されますことは、誠に喜ばしい限りであり、心からお祝いを申し上げます。

顧みますと、本県高文連の結成に向けての具体的な活動は、昭和58年の夏に、全国各地から8,200名を超える高校生を本県に迎えて、『第7回全国高校総合文化祭』を開催したことに始まりました。

その後、各学校の文化活動を支えてこられた文化部顧問の先生方の熱心なお取組みにより、高文連結成の機運が一層高まるとともに、組織の基盤づくりが出来上がったように思います。

ちょうどその時期（昭和62年）に、私は教育庁文化課勤務を命ぜられ、以来6年間、教育行政の面で高文連関係業務を担当することになりました。与えられた課題は、山口県高文連の設立記念式典の準備や、その後の円滑な運営のための連絡調整及び組織の充実を図るための財政的基盤づくりでした。

その間、歴代の会長さんや事務局役員の方々には一方ならずお世話になりましたが、諸先生方の御尽力により、本県高文連は力強い一步を踏み出し、確かな歩みを続けながら、県高校総合文化祭の定着化をはじめ、相互に切磋琢磨する実技講習会、高校生の文化的裾野を広げるための自主文化事業や国際文化交流事業等々、本県の高校文化活動を今日まで年々充実発展させてくれましたことは、御同慶に堪えない次第であります。

さて、私の高文連の想い出として特に印象深いものは、隔年毎に実施していた本県の高校生と韓国慶尚南道や中国山東省の高校生とによる国際文化交流事業（吹奏楽・合唱・日本音楽部門等による交歓演奏会）であります。

それぞれの国の文化や習慣の違いから、幾多の問題点や困難も数多く指摘される中で、スムーズに事業を進めるために、事前の交渉においても、かなりの調整を要し、苦勞もいたしました。しかし、演奏会本番のステージの上で見せてくれた両国の高校生たちの底抜けに明るく弾けるようなエネルギーや心の通い合った美しいハーモニー、また、チームワークの快さ、そして幕が下りたステージで熱演を終えた若者たちの頬を光らせたあの純粋な涙の美しさなど、高校生がこんなにもすばらしく魅力あふれる存在であるのかということを感じるとともに、今までの苦勞などは一度に吹き飛んでしまいました。そして私自身も、会場を埋め尽くした聴衆の一人として彼等と感動を共有しながら、国際文化交流の素晴らしさと高文連を結成できたことの喜びを肌で感じていました。

近年、学校教育の在り方が問われ、いろいろな改革が推し進められている中で、高校生の豊かな感性を育む文化的活動の重要性はますます高まっております。

21世紀を担う高校生の皆さんが優れた芸術文化に触れ、あるいは自らその創作活動に参加することは、情操豊かな人間形成に資するためにも、また、真に心の豊かな社会を築くためにもきわめて重要であり、今後の山口県高等学校文化連盟の更なる御隆盛と御発展を心から念願するものであります。

終わりに、山口県高文連の10年間の堅実な歩みに衷心より敬意を表するとともに、御尽力賜りました諸先生方や関係各位に対し、深甚なる感謝を申し上げましてお祝いの言葉といたします。



山口県高等学校文化連盟設立の頃

山口県高等学校文化連盟

初代会長 五十部 益一

昭和58年夏、酷暑の中、第7回全国高等学校総合文化祭が山口県で開催され、全国から8,200名の高校生を迎えて大成功裡に終わり、山口県でも文化の各部門が横の連携を密にした連盟を設立しようではないかという機運が漸次高まってきた。

昭和61年には第10回全国高校総合文化祭が大阪府で開催され、山口県教育委員会の要請もあり、安光照夫防府高校長、山崎凱千文化課指導主事に同道して視察に行き、設立の必要性を感じて帰った。また、昭和61年度には全国高校総合体育大会（インターハイ）が山口県を主会場として中国五県で開催され、山口県の高校生の意気は、いやが上にもあがった。スポーツと文化は高校生活にとっては車の両輪であるとの考えからインターハイの成功は、山口県高校文化連盟の設立に拍車を加えた。昭和61年には全国では既に30数都道府県が高校文化連盟を設立しており、山口県は遅れをとっている状況であった。山口県教育委員会の御指導を仰ぎながら山口中央高校に事務局を置き、設立の準備に当たった。しかし、規約の作成、事業の内容、運営、会費のこと等、ずぶの素人の集団ではあり、まさに暗中模索の体たらくであった。岩手県、青森県等の先進県を参考にしながら、やっと昭和62年設立の運びとなった。

昭和62年春の山口県高校長総会で規約、役員等が承認され、私は初代会長に選任された。早速、県内の公私立高校ならびに高等部を設置している特殊教育諸学校に加盟を呼びかけたところ高校2校を除いて、すべて加盟していただき、6月20日防府市公会堂で加盟校の代表生徒が持ち寄った校旗の林立する中で山口県高等学校文化連盟の設立を声高らかに宣言できたのは今でも忘れられない。特に全国高校文化連盟のシンボルマークが、その年の春、会長会議で承認されたばかりで、山口県がそのシンボルマーク入りの連盟旗を全国で最初に掲げての結成式であったことは印象的であった。なお、蛇足ながら付け加えれば、その年の総合文化祭を第9回としているのは、実は昭和54年に音楽部門と美術・工芸等の展示部門が、4年後開催される昭和58年度全国高校総合文化祭（山口大会）のリハーサルを兼ねて県内2会場で総合的に開催し、その年を起点としたからである。従って現在のような形になってからは平成9年度は第11回になるはずである。

山口県高等学校文化連盟は、どうにか設立に漕ぎつけたものの、初年度の事業、運営、予算の執行等をいかにすれば高校生のための文化連盟になるか腐心することも多かった。各部門の発表大会の持ち方、特に歴史のある部門の今までのあり方と高文連の関わり方と高文連の関わり合いはむずかしいものがあつた。歴史のある部門からは、高文連へかなりの圧力もあった。また、全国高校総合文化祭への出場校はどういう形で選んで出場させるかも悩みの種であった。即ち、コンクール形式か推薦制かの議論である。コンクール形式にすれば毎年同一校のみが出場するようなことになり、出場できない学校は意欲を喪失してしまうおそれがあるし、推薦制にすれば実力不足の学校が出場して全国大会で、ビビッて自信を失って帰って来るのではないかと心配されたが、一応、各部門の主体性に任せることで落ち着いたように思う。

山口県高等学校文化連盟も設立されて満10年、総合開会式もローテーションができ、各部門ごとの発表大会もスムーズに運営されている。また、自主事業も軌道に乗り成果を挙げているのを見るにつけ、今昔の感を深くしている。山口県高校文化連盟の益々の御隆昌を祈念して止みません。

『手を 伸ばせば ほら』



山口県高等学校文化連盟

第2代会長 繁 富 健 治

私が会長をお引受したのは、平成2年春のこと。それから2年、初代会長五十部益一先生の敷かれた軌道に沿って、高文連のお世話をさせていただきました。その当時は毎日「コウブンレンコウブンレン」で明け暮れていましたのに、現在ではその思い出も霞がかかったようになっていました。しかし、今改めて機関誌「高文連」のページをめくり、私のあいさつ原稿やアルバムを見返すうちに、往時の感激がよみがえってきました。その中から三つ、思い出をつづってみましょう。

まずは県総文祭。その開幕式典は、平成2年度は岩国市民館で、翌3年度は光市民ホールで開かれました。会場を埋め尽くした高校生の熱気をひしひしと感じながら、私はあいさつのなかで、それぞれ次のように訴えました。

岩国会場で…「汗を流して一緒に何かを作ること。それぞれの持ち味を大切にし合い、他人の良さを発見すると同時に自分の個性を確認すること。そこに総文祭の意義を見い出したいのです。」

光会場では…「皆さんは今正に青春真っただ中であります。その青春の声をそれぞれの学校で、あるいは県内各地で響かせながら、共に励まし合って、文化の光輝く第13回総文祭にしましょう。」

平成3年は山口県高文連が発足して5年目に当たります。それを記念して、以後毎年テーマを設けることにしました。テーマ第1号は『ひびけ青春のこえ かがやけ文化のひかり』でした。

次は全国総文祭の思い出です。私は山梨県と香川県の大会に参加しました。全国から一万数千人の高校生が集まり、部門ごとに多彩な発表がありました。8月という猛暑の季節も手伝って、本当に熱気に満ちていました。山口県の代表が出場する時間に合わせて、汗をふきながら各会場を巡回しました。高校生のひたむきさに拍手を送りながら、やがて彼等が21世紀の扉を力強く開いてくれるであろうと、期待に胸ふくらませたことを懐かしく思い出します。

三つ目は平成2年度の国際交流事業として、韓国慶尚南道を訪問した時のことです。山口県から合唱・日本音楽部門の代表71人と一緒に、慶尚南道昌原市のKBS放送総局公開ホールのステージに立ったのは、平成3年3月27日のことでした。

韓国の高校生1,800人を前にして、琴の調べが静かに響き出した瞬間、それまで準備に費やした1年間の苦労が深い喜びに変わりました。「案ずるより産むが易し」といいますが、この時の体験を通して、案ずればこそ産むことが可能になり、労多ければこそ喜びは増幅されることを実感したのです。その日の交歓演奏会と交歓夕食会は、日韓両国の高校生の力が彩なす感動の連続でした。

今日という日は確実に過ぎ去りますが、思案と苦労の集積としての感動は生涯心に残るでしょう。そしてその感動体験こそが高校生の成長に大きく役立つものと信じています。

私自身、高文連に身を置いた2年の間に、数多くの出会いと感動を得させていただきました。これも、ひたむきに努力した生徒達、献身的に指導された先生方、そして常に温かくご支援くださった県教育委員会の方々のお陰です。とりわけ、当時の事務局長・窪田恵、斎藤真久両先生をはじめ事務局の先生方に心からお礼を申し上げます。

「全国高文連の歌」は、こんな歌で始まります。『手を伸ばせば ほら きっと誰かが支えてくれる 見渡せば ほら 仲間がいつでもそばにいる』 山口県高文連が文化を築き高めるために、多くの人々に支えられてますます発展するようお祈りいたします。



思い出

山口県高等学校文化連盟

第3代会長 石井 秀和

山口県高等学校文化連盟発足10周年の節目を迎えられましたこと心からお祝い申し上げます。会長様をはじめ関係者の皆様方のお喜びもひとしおのこととお察し申し上げます。

さて、私も2年間高文連事務局の皆様方と運営に携わりましたが、やはり私は直接肌を感じましたことは、平素から生徒の皆さんが僅かな時間を見い出し文化活動に励み、その練習の結果を県大会や全国大会で十分に披露し合い成果を挙げたことにつきます。私も2年間を通して数多くの思い出があります。

平成4、5年度にはそれぞれ徳山地区（主管校は徳山高校）、山防地区（主管校は山口高校）で総合文化祭総合開会式を開催しました。総合開会式では会場を埋め尽くした高校生の熱気と感動の中で幕が開き、最初が開幕式典の合同合唱でした。400名近い大合唱団が、ワーグナーの「タンホイザー」と「大地讃頌」を山口県が誇る高校生の管弦楽団に合わせての大合唱でした。私もこのような大規模な合唱を見聞きしたことは初めてで荘厳さを感じました。後日、合唱部門の理事長さんのお話では『ドイツ語の発音や高音域の歌い方などいろいろ危惧したが、顧問の方々の熱意と高校生のすばらしいパワーでなんとか切り抜けました。』『全員が舞台上に上がれるかどうか大変危ぶまれたが、周囲のご協力で収まることができました。また、朝からのリハーサル等で疲れきった高校生も舞台では、気持の高揚を隠しきれなかったようです。』などの言葉がありました。総合開会式を皮切りに11月まで各部門が日頃の芸術文化活動の成果を十分に発表し、県民の皆様方から激賞の言葉をいただきました。これも偏に顧問の方々や関係者の皆様方のご指導の賜と深く感謝いたしました次第です。

例年8月上旬に開催される全国高等学校総合文化祭においても、本県から300名程の高校生が各部門から参加し、日頃の研鑽の成果を発表し各部門とも高い評価を得ました。殊に前夜祭の市中パレード（4年度：三田尻女子高校、5年度：宇部女子・三田尻女子・早鞆高校）が参加しましたが沖縄大会では夕方であるにもかかわらず、蒸し暑さで倒れる高校生も見受けましたが、高校生は最後までやり遂げました。また沖縄大会では開催中に台風に見舞われるなど、引率された顧問・役員の方々には誠に迷惑をおかけいたしました。

さて、平成4年度は「山口県・山東省友好協定締結10周年」を記念する年でもあり、光栄にも高文連がその一端を担うことになりました。県下の5校50名で吹奏楽団を編成し、8月18日から一週間、山東省の済南市・泰安市の二市で記念演奏会を行い熱烈な歓迎を受け、両会場とも入場者があふれる熱気に満ちた状況でした。演奏会には山東省の音楽評論家（済南市では200人入場していたそうです）からは、高校生としては高い評価をいただきました。滞在中には山東省の高・中学生との交歓会も行いました。山東省は多数民族からなり、高・中学生が自分達の民族の伝統芸能文化をよく継承し、舞踏・民謡等のすばらしさを披露し感動の連続でした。私共団員一同は友好協定締結の役割を十分に果たし得たと自負いたしました。

私が2年間の高文連活動を通して痛感したことは、やがて迎える21世紀には『豊かな心 創造のたくましさ』が求められているということです。これからの高校生は互いに知性や感性を磨き、友情を深め、国境や民族を超えた相互理解を深めることが大切でしょう。

最後に、献身的なご指導をいただきました顧問や関係者の方々に敬意と深謝を心から申し上げ、今後の山口県高等学校文化連盟のますますのご発展を祈念いたします。



文化部にも参加を

山口県高等学校文化連盟

第4代会長 桂 雄三

平成6年4月の人事異動によって山口中央高校に転勤し、それから2年間、県高文連の会長を務めました。その間、県の総合文化祭の開催や全国高等学校総合文化祭への参加を通して、多くの関係者の皆様に御協力いただいたことに心からお礼を申し述べたいと思います。

思い出の一つに会費の値上げがありました。着任した6年度には、すでに連盟の経営状況は一段と厳しさを増しており、それまでの一人当たり200円の会費の値上げは避けられなくなっていました。事務局にご苦勞をおかけして、以後10年間値上げしないでやっていけることを前提とした案を作成し、各種会議にお諮りして350円の前案を承認いただいた時は、肩の荷がおりた気分でした。途中で、値上げ案が危うくなりかけた時に、「年間にジュース1本がまんすれば、県の高校文化の水準を維持できるのだから認めよう」と何よりの御支援をいただいたある先生に、あらためてお礼を申し上げたい。

任期中の忘れられない出来事に、渇水の最中にひらかれた6年度の全国総文愛媛大会がある。本県からの参加者もこれには泣かされ、特に松山市内での宿泊では、食器は全て使い捨てのもの、水もほとんど出ない状態でした。しかし、地元の高校生のボランティアとしての活躍には目を見張るものがあり、プログラムを手にして立ち止まると、「どちらへ行かれるのですか。」と声がかかるほどでした。暑い、悪条件下での大会ではありましたが、各会場にあふれていた善意を忘れることができません。

平成7年度では、音楽部門でわすれられない思い出があります。一つは、県総文の開会式で、下関市民会館につめかけた一杯の聴衆を前に、地元の高校生、先生方、そして各高校の管弦楽団の総力を結集した『第九交響曲』の演奏でした。主管校の下関西高校をはじめ、主として豊岡地区各学校のすばらしいハーモニーに、会場の人々は皆感動したのです。本県の高校文化祭の歴史に残る企画であったと思います。

もう一つは、新潟県上越市で開催された全国総合文化祭の器楽・管弦楽部門に、遠路大人数で参加いただいた下関南高等学校の演奏です。その日の午前の部の終わりに、福岡県の養護学校が生徒と先生が一体となった感動的な演奏をされ、場内は一段と盛り上がっていました。出場する各学校が、都会の生徒らしいミニのスカートでの登場であった中で、ロングの大変シックな衣装をまといラヴェルの『ボレロ』を演奏し終った時、場内は割れるような拍手につつまれたのでした。全国総文は、各県の高校の技の交流の場であると言われていますが、山口県のレベルが高いことを示す熱演だったと思います。後でお聞きしたところでは、大部隊の移動、楽器の運搬に御苦勞が多かったそうですが、大会のテーマどおり「日本海を夢色に染めた」音色だったように思います。

2年間を通して一つ残念に思ったのは、県内の発表会に来てくれる仲間が少ないことでした。スポーツと同様で、多くの人に見聴きしていただき、批評いただくことが何よりも技術の進歩につながるのではないかと思います。近くで発表会が開かれた際には、是非一人でも多くの方が足を運んでくださればと願っています。

「第7回全国高校総文山口大会」

第7回全国高校総合文化祭

吟詠剣詩舞部門副部長

児玉 明

全国高等学校総合文化祭の思い出をとのご依頼を受けたがさて困った。山口県で開催された「第7回全国高校総文」は15年前の昭和58年、私も退職して7年が経過し、当時の記録は何一つ無く、ただ記念に取っておいた総合プログラムと写真が数枚あるのみだからこれを元にして書いてみるとする。

昭和51年ごろだったか高校に週1時間の「正課クラブ」が取り入れられた。部活動とは違った面での活動ということで、私の勤めていた萩工業高校でも、教員各自の趣味・特技などを重点に30ばかりのクラブが編成された。私は謡曲と詩吟をやっていたので「謡曲・詩吟クラブ」をつくった。入部希望は先生ばかりで生徒はゼロ。大人でも取り付きにくい謡曲など生徒にやれというのが無理な話。それでも行き場の無いあぶれた生徒が20名ばかり集った。謡曲はともかくとして詩吟の方はだんだん面白くなって生徒も本気でやるようになった。丁度その頃懇意な詩吟の先生から、大分県で高校生の全国的な文化祭があるので参加されてはどうかとの話があり、早速許可を得て参加した。昭和54年8月のことで、これが第3回全国高校総文大分大会であった。吟詠部門には40校ばかり参加していたと思うが、出場者は吟詠部員だけではなく、校内での同好会的な参加者が多く、同宿した宮崎県の生徒も全員野球部員であった。校名は忘れたが、野球の練習前に全員グラウンドに整列して詩吟をやるのだと話していた。その頃山口県でも全国総文が計画されたのだろうか高校総文という言葉聞くようになったと記憶している。

やがて全国高校総文山口大会が本決まりとなり、私も吟詠部門のスタッフの一人となった。吟詠は邦楽と一緒に発表することになり、先ず県内の体制作りの意味もあって県内発表会を開くことにした。邦楽の方は県内高校では活動の歴史があったが、吟詠は正課クラブか個人の活動程度で、県内各高校にお願いしたが参加は4～5校であった。昭和54年秋頃だったか、なんとか「第1回山口県高等学校芸術文化祭・邦楽・吟詠部門」の発表会にこぎつけた。その後も全国総文を念頭におきながら発表会を重ねた。主管校が中村女子高校であったため、主に中村女子高校の体育館を使用させて頂いたが、初め頃は県立図書館も使ったように思う。手元の写真を見ると、全国総文も間近に迫った昭和58年6月19日に、新築された教育会館大ホールで第5回山口県総文・邦楽吟詠部門の発表会を開催している。当日は受付、案内、誘導、進行など全国大会のリハーサルを兼ねた発表会であった。

一方全国総文の方も続々と参加申し込みがあり、進行、演出、舞台、照明など、それぞれの担当で綿密な台本を作成した。出演タイムスケジュール表に苦勞したのを思い出す。一番困ったのは大会直前になって変更を申し込まれ、折角作った表を消しゴムでゴシゴシ消しながら作り直した。現在のようにワープロがあったら、字句の訂正も瞬時に改行も出来るのに当時は全部手書き、他の先生方も大変だった。

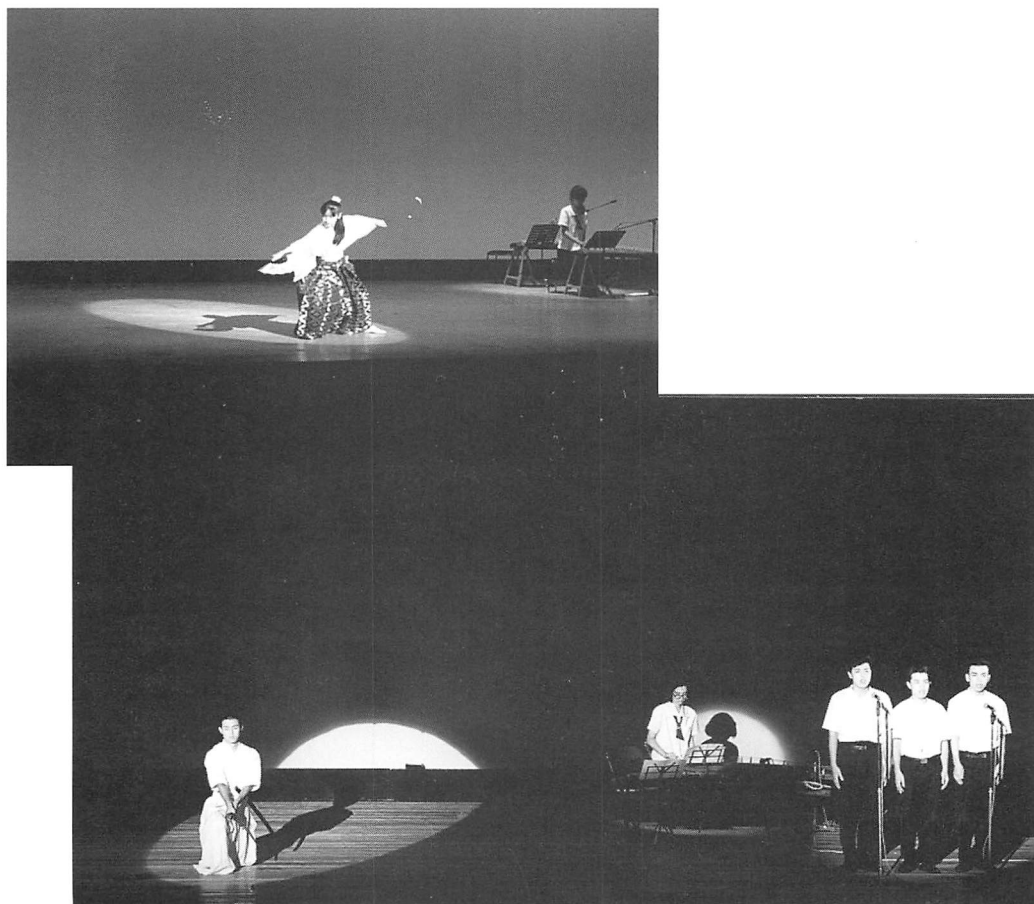
準備万端整い、吟詠・邦楽のスタッフは開会前日から郊外の寺に合宿して最後の打ち合わせをした。昭和58年8月2日、いよいよ全国高校総文の開幕日となった。全国から600校、約8,000名の高校生が山口に集った。吟詠は初日の2日、邦楽は最後の4日、会場は教育会館大ホール。部長の中村女子高校校長・津田正人先生を中心に、中村女子の先生方20名、生徒100名余名が、受付、案内、接待、誘導など、かねての申し合わせどおり一糸乱れず大活躍であった。

吟詠部門は全国から29校、出演者270名。一般観客多数を前にして、独吟・合吟・構成吟とすば

らしい発表が続いた。山口県も下関工業高校・下松高校・萩工業高校・聖光高校が出場し、維新発祥の地にちなんだ構成吟、平和を希う「原爆記念日感有り」など、開催県として精一杯の発表をした。

長い間かけて準備した高校総文吟詠の部もあっという間に終わった。ガラんとしたホールをのぞいて、やれやれ終わったと体中の力が一度に抜けたのを思い出す。

全国高校総文を機に県内高校の文化活動も活発となり、これが高文連の結成につながったと思う。吟詠部門も日本音楽（邦楽）と一緒に毎年発表会が開催され、全国総文にも出場されているようで大変結構なことだと思う。ただ吟詠がだんだん少なくなっているようで残念である。これも時代の流れかも知れないが、吟詠は日本人の感性によく合う芸能であるし、漢詩の勉強にもなるので、高文祭から吟詠の灯が消えないことを祈るのみである。



高文連の思い出

山口県高等学校文化連盟
元事務局長 窪 田 恵
(山口県立宇部中央高等学校長)

山口県高等学校文化連盟（高文連）が発足して10周年を迎えました。御同慶のいたりであります。心からお喜び申し上げます。私が高文連に直接関わったのは、昭和63年度から平成2年度にわたる3年間で、初代の中井事務局長（現県立萩養護学校長）の後をうけて、2代目事務局長としてお世話になったことであります。当初高文連は、10の専門部から構成されていましたが、平成元年度からは囲碁部が誕生し、11の専門部の理事長の先生方と苦労を共にしたことが、昨日のこのように甦り、感慨深いものがあります。高文連の主な行事は、山口県高等学校総合文化祭の開催と全国高等学校総合文化祭への参加でありました。他に、自主事業として各種の文化事業を用意して、各学校を巡回して、生徒の皆さんと共に感動を体験できたことも、思い出の一つであります。

高文連の3年間で私が特に印象深く心に刻んでいることと言えば、それは国際交流事業であります。既に昭和63年春に山口県吹奏楽連盟が高文連の後援を得て、高校生の吹奏楽部員122名を韓国慶尚南道に送って親善訪問を成功させておりますが、平成元年度高文連として初めて合唱部と日本音楽部の二部を、同じ慶尚南道に派遣することが決定されました。その準備に入ったのが平成2年度になってからでありました。派遣される二つの部員の人選、合同練習、韓国での事前の打ち合わせ会、韓国についての勉強会と、それは大変な事業でありました。お世話されました引率の先生方の寛容なる心遣いに、唯々感謝するばかりでありました。

二つの部の国際交流団は平成3年3月22日に、山口県教育会館での結団式を終わり、25日に下関港から関釜連絡船にのり出発しました。往路の航路は、この事業の平穩を象徴するかのようにはべた風の航海でありました。翌日、釜山港に全員無事上陸しました。この日は釜山と慶州の観光が組み込まれており、一行が楽しみとしている行事でもありました。慶州の仏国寺ほかの観光地を廻って、天候にも恵まれ楽しい一日となったようです。私はこの日、観光団とは別行動で、日本から持ち込んだ琴を演奏会場となる昌原市に運搬することになっていました。小型トラックを頼み、十数個の琴を毛布にくるんだだけで、荷台に積み上げて高速道路をぶっ飛ばすのです。俄じこみの韓国語では、運転手さんと会話もなく、ただひたすら手に汗をかきながら無事を祈りました。昌原市に着いて、琴が無事なのを確認して胸を撫で下ろしました。この旅行中、一番長い一日でありました。夜は一行と合流するため釜山に向かいました。この日の宿泊は釜山のコンドミニアム、ここでも夜の一刻を翌日の演奏会のために練習をしたり、交歓会での余興の練習にあてたり、多忙な一日でありました。翌27日は昌原市のKBSスタジオの公開ホールでの演奏会にバスで出発しました。この日の演奏会は、日韓の高校生による合唱と日本の琴、韓国の伝統音楽の楽器演奏とで、大変に盛り上がり、交流事業は大成功のうちに終わりました。生徒たちの目に感動の涙がひかっていた最後の合同合唱のステージは、いまでも目に浮かびます。この日の夜の日韓高校生による交歓会も楽しい会となりました。復路の航海は台風の余波で全員船酔いを体験しましたが、これも今となっては楽しい思い出の一つになっています。

高文連への道

山口県高等学校文化連盟

元書道専門部理事 桑 野 忠 勝

十年一昔というが、山口県高等学校文化連盟も設立から十年とか。記憶違いの許しをいただいて、高文連設立への道程を思い出してみよう。芸術教育が、生徒の情操教育の面から重視されるようになってきた。歴史の歯車は心の豊かさを求めて動きはじめた。豊かな人間性を育む一つとして芸術科にライトが当てられた。一人の芸術科の書道教師としてある種の希望と責任とが胸中を去来した。山口県高等学校教育研究会（高教研）の会合では、折にふれて美術の先生とよく話した。「県下の高校生の美術・書道の作品展をするといいですね。」と。とりとめもない空想を話し合ったものである。

瓢箪から駒が出るようなありがたい話を耳にしたのは数年後のことである。たしか国からの補助金が高校の芸術活動のために出るということであったと思う。この予算をどのように有効に芸術（教育）活動のために充当するか、山口の県立美術館で何度かの会合がもたれた。山口県高等学校文化祭という名称に更に「芸術」の二字を入れようという合意で、「山口県高等学校芸術文化祭」というものができた。はじめは美術と書道で、山口の県立美術館で畏れ多いような気持ちで晴れがましくスタートした。更に写真が加わり内容が充実していった。やがて回を重ねるうちに県内の各地で開催することになり、県立美術館を後にした。

寝耳に水の話であった。1983年の第7回全国高等学校総合文化祭（全高総文）を山口県で開催するという。全国の書道教育研究大会での情報交換で、高文連があつて全高総文の開催がスムーズに行われた、という話を何回か耳にしていたけれども、山口県では事情が違う。しかし三年間の準備期間があると聞く。文化課の中に全高総文のスタッフが配置され、学校現場からの委員が加わり、綿密なスケジュールに従って準備は整っていった。教育庁庁舎がまだ木造であった時代のことだが、準備のための会議が度々開かれた。「指導課ではお茶しか出なかったよ。（ごめんなさい）」といったら、文化課の女性の方が最中とコーヒーを笑いながら持ってきた。そのユーモアをありがたくいただいたことを懐かしく思い出す。まさに忙中に閑有り。開会まであと何日というスケジュールが進められていく。いよいよ第7回全国高等学校総合文化祭の開幕。展示場は県立博物館であった。文化庁長官を案内する。長官も学生時代には九成宮醴泉銘を臨書したことを話してくれた。この日は場所によっては一時的にしろ四十度という声を聞いた。後に山口方式と呼ばれた全高総文祭は盛大裏に全国から集った高校生に様々な感動を与えて幕を閉じた。

人間万事塞翁が馬かもしれない。経済の変動で、山口県高等学校芸術文化祭を支えてきた補助金が打ち切られる。漸く定着してきた芸文祭が開催できなくなる。このままやめるか、何とかして続けるか。問題は極めて深刻であるが、衆議は後者を選んだ。全国的な動きとして各県毎に次々に高文連なるものが設立されていった。まさに機は熟してきた。県高文連設立のための準備会が指導課、文化課の進行でもたれた。「芸術」の枠が外されて幅広い文化活動として、「高体連」と対比される「高文連」という認識で「山口県高等学校文化連盟」の誕生をみることになる。各学校での予算の分担で、続けてきた文化活動が更に広く発展的なものになり、真に喜ばしい限りである。思えば長い道程であったが、その間のノウハウが高文連に受け継がれていったことである。

高文連誕生の思い出

山口県高等学校文化連盟

初代吹奏楽専門部理事 重 広 昭 雄

記憶は定かではないが、昭和50年頃、山口県吹奏楽連盟の役員として全日本吹奏楽連盟総会に出席した。千葉県役員から、高等学校文化連盟が組織されて第1回全国高等学校総合文化祭が千葉県で開催されることを知りました。高等学校の文化活動を高体連と同じように教育活動として保障する趣旨であることを理解したことが思い出されます。(山口県では全く話題「情報」が無く、無知のまま質疑をきいていました。)

山口県では高等学校の部活動として文化部(音楽関係)顧問は各種文化団体の会議に出席する場合は年休か特休扱い(理解のある校長は私費対応)で、その年度の行事を作成していた。(文化部の活動は教育活動として予算的に認知されていなかった。)県主催のイベントは別に組織をつくり、実行委員会等で開催された。(第18回山口国体の式典吹奏楽団:720名編成等)国策として文化振興が強く叫ばれるようになり、文化庁が誕生すると山口県教育委員会(教育庁内)にも文化課が設けられ芸術文化担当指導主事が生まれた。文化課を窓口にして第3回から第10回までの全総文関係事務(団体推薦・予算補助・参加申し込み等)がおこなわれた。

昭和56年度の全国教育長会議の席で、第7回全国高総文は山口大会と決定される。開催に向けての準備会等で、山口県高文連の組織化を強く要望いたしました。高等学校校長会等で既成の組織を主格にして対応することが決められ、高文連組織の必要性は理解していただいたが、山口大会までには無理であることになる。(当時を振り返ると高等学校の教育活動は、校長会の承認をいただかないと何事も進展しないことをはじめて知る。行政指導では無理!)当時の関係教員は、全国高総文山口大会を立派に成功させることが高文連組織化にむけて、県民(校長会)の理解が得られることを信じて行動した。山口県の文化施設は、全国レベルとしては恥ずかしいが、教育庁準備室と連携を保ちながら関係教員と生徒とで、「親切大会」運営を心がけたことを思い出します。

また、つづいて61総体の引受(インターハイ山口大会)が決まり、総合開会式の式典音楽団編成依頼があり、関係職員は不愉快であったが、高文連組織化の約束を得て、全面協力をするようになる。猛暑の中総体事務局の強い要望(指導)を果たすために早朝7時より維新公園で指導者会議(音楽団は8時集合・9時練習開始)を実施し、きびしく対応した成果は本番で充分にいかされ、立派な式典にすることができ、指導委員会の関係職員は大変感動したものです。当時、文化部関係顧問の合言葉は『権利を主張する前に義務を果たせ!(必ず高文連は誕生する)』でした。総体終了後、山口県高等学校文化連盟設立準備会が開催され、山口県としての高等学校文化活動について真剣に議論(規約・事務局等)が展開され、校長会(幹事校)に諮られた結果、賛同がむつかしい課題が生じた。主な理由は教育行政面で強く指導されてこられた私費軽減策(文化連盟会費の徴収は保護者の負担増)に逆行する。[文化部と運動部の差別を解消]もう一方の理由は学生運動の拠点になりうる社会部(社会問題研究に係わる主義主張・右翼左翼)の部活動を振興することにならないか! [全国高総文開催部門で山口県高等学校文化部としている部門で誕生する! (規約…当面11部門)]

このような課題についても、現実的な学校運営面を配慮し、いろんな問題をかかえながらも校長会の承認をいただいた過程を忘れてはならないと思います。

昭和62年6月20日山口県高等学校文化連盟の設立記念式典が防府市公会堂で盛大に開催された。当時の私どもの苦勞を代弁していただいた、主管校校長(防府高等学校元校長・増野克巳氏)の挨拶文が誕生当時の経緯を説明しています。

『燃えろ 輝け たくましく』をスローガンにした61年全国高校総体。そして4年前の第7回全国高校総文。あの時の合言葉は『友情 創造 かがやけ青春』。ともに山口県の空の下で、そしてともに夏の盛りに展開された全国の高校生たちの若さと感動でした。そしてそのどちらも立派に成し遂げて、内外から惜しめない賞賛を得るとともに、又広く高校教育への理解を深める貴重な機会とすることができました。あの成功は、先生方の熱意と指導力もさることながら、生徒諸君のひたむきな努力精進の賜でありました。山口県の高校生は、大いに自信を持ってよいと思います。

あの間の模索と苦闘、そして感動を織りまぜた数々の体験。その過程で若者たちの心が味わった挫折と克服、そして成熟の遍歴。これらは彼等の豊かな成長のためにかけがえのない肥やしとなりました。あの成果を一過性に終わらせることなく継続させ、発展させて行きたい。今日の山口県高文連設立の背景には、このような経緯と期待があったと思います。

折から心の豊かさが求められる今日、高校生の皆さんが心身ともにたくましく、創造力に富んだ心豊かな若者に育ってくれることは、これからの社会の変化や文化の発達に対応していくために不可欠の要請であります。……

山口県高文連への課題

(1) 高文連運営費について（岩手県等との予算を比較して研究する。）

- a. 生徒から徴収する高文連会費を高体連会費と同額にして（岩手県等）部門の活動を活性化する運営策を検討する。（生徒数減、部門活性化等）
- b. 部門事業（イベント等）の開催（運動部に準じた事業、春秋2回は必要）。運動部と同様に年間活動期間（目標）を保障する。

(2) 教育活動の解釈について（文化部顧問に指導意欲をを起こさせる社会的環境の整備）

現在の特殊勤務手当支給に係わる規定では、国・県・県教委・開催市町村・開催市町村教委・教育団体等の主催行事でないと教育活動と解釈されないので、各種文化的行事（コンクール等）に生徒を引率して出場した場合、特殊勤務手当が支給されないことがある。また、県大会を経て上位大会（中国・全国大会）に出場する場合の扱いは、県大会の扱いに準ずる方向で運用出来るよう人事委員会に改定をお願いしていただきたい。＊同じ高校の部活動で吹奏楽・合唱部と中国大会に出場（引率、指揮）し、合唱部（岡山）は特勤手当が支給され、吹奏楽部（鳥取）の引率には特勤手当の請求手続き（出せない）ができなかった。理由は県・県教委（鳥取）が後援の大会であるから！

同じ高校で同じ活動をしている引率教員（顧問）に差別が生じることは好ましいことではない。＜額は僅かですが、直接指導している正顧問は宿命として理解できるが、副顧問に申し訳ない。教育活動の解釈は、各学校の教育方針（生徒会活動の内規）によって運営（解釈）できるように改定されたい。＞

(3) 山口県民文化祭について

山口県では、いままでの文化行事が『県民文化祭』にタイトルが変わり、機構も県民の文化意欲高揚のために、生活環境部文化振興室が課に昇格されて、行政面からの援助得られる環境が整備されたと思います。この機会に山口県高文連とのかかわりについて研究する必要があると思います。

[終わりに] 美祢高校に22年間、防府高校に15年間勤務して、この度退職いたしました。全国高校総文には、第3回大分大会（美祢高校・吹奏楽）、第7回山口大会（合唱・管弦楽・吹奏楽）、第9回岩手大会（吹奏楽）、第14回山梨大会（合唱）、第16回沖縄大会（管弦楽）、第18回愛媛大会（合唱）、第20回北海道大会（吹奏楽）と出場させていただき、国際文化交流事業で韓国に2回（吹奏楽140名、合唱と日本音楽70名）、また中国にも「山口県・山東省友好協定10周年記念」（吹奏楽58名）で参加させていただきました。生徒と関係者でつくりあげた、あの感動は生涯忘れることはないと思います。このような機会を与えてくださいました山口県高文連に心から感謝申し上げます。高校の文化活動が山口県芸術文化振興の一翼を担っていると信じています。山口県高文連の限りなき御発展を祈念申し上げます。

山口県高等学校総合文化祭／開催記録（第1回～第18回）

部門名 期日/会場/主管校	第 1 回 昭和54年	第 2 回 昭和55年	第 3 回 昭和56年	第 4 回 昭和57年	第 5 回 昭和58年
総合開会式・ 音楽 4 部門	下関市民会館 (下関南)	岩国市民会館 (岩 国)	美祢市民会館 (美祢中央)	光市民ホール (光)	(全国高総文化祭) 8/2～4 総合開会式、合唱 山口市民会館 吹奏楽、管弦楽 防府市公会堂 マーチング・バトン 山口県体育館 演劇 宇部市渡辺翁記念会館 邦楽 山口教育会館 美術・工芸 山口県立美術館 書道・写真 山口県立山口博物館 (リハーサル) 宇部市文化会館
演 劇				宇部市渡辺翁記念会館	
日本音楽・ 吟詠剣詩舞			山口県視聴覚センター (中村女子)	中村女子高 (中村女子)	
展示 3 部門	山口県立美術館	山口県立美術館	山口県立美術館	山口県立美術館	

部門名 期日/会場/主管校	第 6 回 昭和59年	第 7 回 昭和60年	第 8 回 昭和61年	第 9 回 昭和62年	第 10 回 昭和63年
総合開会式・ 音楽 4 部門	徳山市文化会館 (徳 山)	宇部市渡辺翁記念会館 (宇 部)	山口市民会館 (山 口)	6月20日～21日 防府市公会堂 (防 府)	6月18日～19日 萩市民館 (萩)
演 劇	下関市文化会館	宇部市渡辺翁記念会館	山口市民会館	10月31日、11月1日 岩国市民会館 (岩 陽)	11月22日～24日 下関市文化会館 (下関商)
日本音楽・ 吟詠剣詩舞	萩市民館 (萩)	岩国労働会館 (岩 国)	小郡ふれあいセンター (山口県鴻城)	6 月 28 日 下関女子短大付属高 (下関工)	6 月 19 日 中村女子高 (中村女子)
展示 3 部門	宇部市文化会館	下関市立美術館	岩国市民会館	12月25日～27日 防府市公会堂 防府市文化福祉会館 (防府西)	12月2日～ 4 日 徳山市体育館 (徳 山)



開催記録

部門名 期日/会場/主管校	第 1 1 回 平成元年	第 1 2 回 平成 2 年	第 1 3 回 平成 3 年	第 1 4 回 平成 4 年	第 1 5 回 平成 5 年
総合開会式・ 音楽 4 部門	6月17日～18日 下関市民会館 (下関南)	6月16日～17日 岩国市民会館 (岩 国)	6月14日～16日 光市民ホール (光)	6月19日～21日 徳山市文化会館 (徳 山)	6月18日～20日 山口市市民会館 (山 口)
演 劇	10月9日～10日 宇部市文化会館 (宇 部)	10月13日～14日 山口県教育会館 (山口中央)	11月1日～2日 岩国市民会館 (岩 陽)	10月31日～11月1日 下関市文化会館 (下関商)	10月30日～31日 山口南総合センター (山口県鴻城)
日本音楽・ 吟詠剣詩舞	6月25日 聖光高 (聖 光)	6月24日 サンビームやない (柳 井)	6月23日 中村女子高 (中村女子)	6月28日 萩市民館 (萩)	6月27日 岩国市勤労者福祉センター (岩 国)
展示 3 部門	12月1日～3日 萩市民館サンライフ萩 (萩)	10月26日～28日 柳井市体育館 (柳 井)	8月17日～19日 宇部市文化会館 (宇部工)	11月13日～15日 ときわ湖水ホール (宇部中央)	8月21日～22日 山口市市民会館 (西 京)
囲 碁	10月29日 山口高 (山 口)	10月28日 徳山高 (徳 山)	10月27日 徳山高 (徳 山)	10月25日 下関西高 (下関西)	10月24日 萩高 (萩)

部門名 期日/会場/主管校	第 1 6 回 平成 6 年	第 1 7 回 平成 7 年	第 1 8 回 平成 8 年
総合開会式・ 音楽 4 部門	6月17日～19日 宇部市渡辺翁記念会館 (宇 部)	6月16日～18日 下関市民会館 (下関西)	6月14日～16日 萩市民館 (萩)
演 劇	10月29日～30日 宇部市渡辺翁記念会館 (サビエル)	11月25日～26日 岩国市民会館 (岩 陽)	10月26日～27日 宇部市渡辺翁記念会館 (サビエル)
日本音楽・ 吟詠剣詩舞	6月19日 下関市文化会館 (下関南)	6月18日 サンビームやない (柳井学園)	6月16日 山陽町文化会館 (厚 狭)
展示 3 部門	8月25日～28日 下関市立美術館 (豊 浦)	11月25日～26日 岩国市民会館 (岩 陽)	11月15日～17日 サンライフ防府 デザインプラザ HOFU
囲 碁	10月23日 萩高 (萩)	10月29日 小野田高 (小野田)	10月27日 小野田高 (小野田)
将 棋			5月26日 中国新聞山口支社 (下 松)
放 送	11月6日 西京高 (山口中央)	11月5日 山口中央高 (山口中央)	11月10日 山口中央高 (山口中央、山口農業)



全国高等学校総合文化祭参加校（山口県）（第1回～第20回）

開催年度 大会回数 開催県	昭和52年 第1回 千葉県	昭和53年 第2回 兵庫県	昭和54年 第3回 大分県	昭和55年 第4回 石川県	昭和56年 第5回 秋田県	昭和57年 第6回 栃木県	昭和58年 第7回 山口県
県代表							
パレード							岩国工業 早鞆 岩国商業 宇部女子 三田尻女子
合唱			宇部	防府	宇部中央		防府、萩、宇部中央
器楽・管弦							下関南、柳井
吹奏楽			美祢		下関西	山口	高森、防府
日本音楽						桜ヶ丘	中村女子、柳井、萩、桜ヶ丘、 柳井学園、徳山、(合同)
吟詠剣詩			萩工業			下関工業 聖光	下松、聖光、萩工業 下関工業
マーチング ・ バトン							早鞆 岩国工業 宇部女子 三田尻女子
美術・工芸					大津	大津 徳山 野田学園	省略
書道		山口 宇部工業 小野田工業	徳山 防府 下関南	下関第一 山口中央 萩光塩	宇部工業 下関南	萩商業 防府 高水	省略
写真						岩国 徳山 厚狭	省略
演劇							厚狭
囲碁							
将棋							
放送							

昭和59年 第8回 岐阜県	昭和60年 第9回 岩手県	昭和61年 第10回 大阪府	昭和62年 第11回 愛知県	昭和63年 第12回 熊本県
		山口	山口中央	佐波
早鞆			宇部女子	佐波
			野田学園	萩
山口中央				下関南
下松	防府	岩陽	高森	
中村女子	萩	岩国	下関女子短附	中村女子
下関工業、聖光 萩工業	下関工業、 聖光	県鴻城、下関 工業、萩工業	聖光、下関工業、萩工業	聖光、下関工業、萩工業 下関女子短附
早鞆			宇部女子	佐波
大津 徳山 野田	柳井 豊浦 防府	大津 岩国 防府	宇部中央 金山 直美 岩国 河野 夏子 厚狭 岡村 綾子	宇部西 松永 豊和 宇部商業 野村 康代 柳井 藤本 聖子 山口中央 兼政 輝海 志賀真木子
下関第一 防府 宇部 鴻城	小野田工業 下関西 香川	熊毛北 豊北 徳山	山口中央 西村 順子 萩光塩 谷村 知子 下関南 大屋 正子	岩国 加藤 直美 熊毛南 森谷 研矢 早鞆 門田 亮
岩国 柳井 宇部西 響	岩国 岩陽 三田尻女子 宇部西 響	防府西 下関第一 岩国 三田尻女子 岩陽	下関工業 高砂 秀史 響 宇部西	下関工業 山中 浩二 響 山本 重幸 宇部 潮村 哲 岩国 野田 美紀 三田尻女子 藤本 正子

全国高等学校総合文化祭参加校（山口県）（第1回～第20回）

開催年度 大会回数 開催県	平成元年 第13回 岡山県	平成2年 第14回 山梨県	平成3年 第15回 香川県	平成4年 第16回 沖縄県
県代表	佐波	佐波	岩国工業	三田尻女子
パレード	佐波 宇部女子	佐波	岩国工業 宇部女子	三田尻女子
合唱	香川	防府	宇部中央	野田学園
器楽・管弦楽	熊毛南	下関第一	岩国	防府
吹奏楽	防府西	下関商業	下関西	防府西
日本音楽	聖光、聾	柳井	中村女子	萩
吟詠剣詩舞部門	聖光、下関工業、萩工業 下関女子短附	聖光、下関工業 下関女子短附	聖光、 下関工業	下関工業、聖光 中村女子
マーチング ・ パトーン	佐波	佐波	岩国工業 宇部女子	佐波 三田尻女子
美術・工芸	岩国 下松 萩 半田 繁幸 中村 美幸 金子 浩司	徳山 柳井 野田学園 野村 朋美 金沢 章代 定金 幸司	大嶺 西京 柳井 宇部女子 萩工業 吉谷 正行 河村 さよ美 坂本 雅子 西村 幸恵 竹下 達麻	山口 山口中央 西京 上坂 美礼 横田 文恵 坂根 弓子
書道	山口 宇部工業 高水 岡 砂夕理 井上 司 河野 順子	下関西 宇部商業 中村女子 澤田 勤 福田亜矢子 藤井喜美恵	宇部中央 野田学園 山口中央 阿川真由子 高橋 和樹 中能久仁子	防府 香川 厚狭 宇部西 上条 真 倉田 幸枝 熊高 直美 三隅 まゆこ
写真	山口中央 徳山 光 防府西 下関第一 川村 祥子 白木 薫 木村 詞明 土屋 登 新井 隆夫	岩陽 柳井 萩商業 行武 村田 森光 上村 佳子 岡野 美保 弘恵 朋恵 泰志 佳子 美保	岩陽 三田尻女子 柳井 岩国工業 田布施工業 安永おりえ 渡辺 忍 山畑 貴慎 佐伯 貴也 石田 清志	柳井 美祢工業 宇部 小野田工業 弘津 聖也 笹見 弘 藤井 勲 金山 淳一
演劇	岩陽			
囲碁	下関西 宇部 小野田 田中 一弥 山本 秀樹 松岡 明子 松本留美子	下関西 岩国 徳山 徳山工業 山田 豊 林 裕治 三木 京子 三木 夕子	下関西 宇部工業 徳山 徳山工業 山田 貞政 三木 耕也 三木 京子 三木 夕子	山口 下関西 徳山 徳山工業 藤山 純久 中村 真言 三木 京子 三木 夕子
将棋				
放送				

平成5年 第17回 埼玉県		平成6年 第18回 愛媛県		平成7年 第19回 新潟県		平成8年 第20回 北海道	
柳井		徳山		下関西		防府	
宇部女子 三田尻女子 早鞆		佐波、宇部女子 三田尻女子 早鞆		県鴻城 三田尻女子 早鞆			
萩		防府		宇部中央		野田学園	
柳井		山口中央		下関南		熊毛南	
岩国		下松		長府		防府	
岩国		下関南		柳井学園		厚狭	
下関工業、聖光 中村女子		聖光 中村女子		聖光 中村女子		聖光 中村女子	
宇部女子 三田尻女子 早鞆		佐波 宇部女子 三田尻女子、早鞆		県鴻城 宇部女子 三田尻女子		県鴻城 宇部女子 三田尻女子	
山口中央 大津 柳井 高森 宇部女子	向井千哉子 入江 葉子 古谷 亮子 朝木 桜 掛橋里枝子	徳山 宇部 山口 西京 大津	河村 公子 福山 由維 矢野 容子 林 裕二 伊藤 英昭	山口 下関商業 萩工業 宇部中央 下関中央工業	矢野 容子 大柿 美佳 末益 慶子 後藤 佳子 上野 陽介	萩 熊毛南 徳山 山口 西京	乙丸 奈緒 土網 香代 延原安輝子 森野 浩子 平田 隆之
大津 美祢 高水 多々良学園	岩本 千草 中村こずえ 藤本 智恵 山岡 秀博	下関西 防府 山口 熊毛北	城戸 裕子 三時 史子 下川 英昭 藤谷 昌代	下関西 徳山 香川 小野田工業	問山 聡美 折戸 公彦 山下由紀子 山田 弘二	高水 中村女子 防府 下関西	小畑 恵美 友安 聖子 後根恵美香 角 琴乃
柳井 美祢工業 小野田工業 徳山工業 三田尻女子	三村 貴則 山田 哲也 中山 剛 藤田 雄二 宮村由希子	柳井 美祢工業 小野田工業 徳佐	森宅 勇 河地 央行 田村 忠治 河村 康弘	柳井 美祢工業 小野田工業	宮本 正明 吉田 喜弘 吉村 純一 岡崎 裕幸 石島 三男	徳山 美祢工業 小野田工業	富永 泉紀 岡崎 裕幸 武安つとむ 田中 智 村岡 寛之
徳山 山口 光丘 山口 光丘	野村 幸生 作間 裕之 武田 涼子 原 智彦 杉尾 直美	萩 山口 徳山 山口 萩	岩田 恵美 作間 裕之 野村 幸生 原 智彦 阿部 恭子	山口 徳山 小野田 徳山	江村 晴子 野村 幸生 松岡 陽子 池田 和正 中原 崇文	下関西 宇部女子 防府 下関南 下関西	縄田 五良 今井由美子 福永 直昭 秋本瑞矢 勝原 聡洋
						下松 厚狭	金築 克祐
				下松 長府 日置農業 山口中央 桜ヶ丘	温品 由紀 栗山 弘子 高橋亜希子 原田 博美 二川 愛 小田村朋恵	岩国 山口中央 萩 野田学園	村本 怜子 廣兼千恵子 石丸 由香 井町 陽浩 石田 将之 杉本 暁子

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

番号	学 校 / 事 業	ピ ア ノ	マリimba	フルート	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
1	安 下 庄	63			平 7	平 4		
2	久 賀	63				平 3		
3	岩 国							平 1
4	岩 陽							平 1
5	岩 国 商 業			平 3			62	
6	岩 国 工 業					平 2	平 6 平 8	
7	坂 上			63		平 5	平 3	
8	広 瀬			63				
9	高 森					平 2		
10	柳 井					平 7		
11	柳 井 商 業							
12	柳 井 工 業						平 1 平 4	
13	熊 毛 南	63				平 6		
14	田 布 施 農 業					平 3	平 5	
15	田 布 施 工 業							
16	光	63				平 8		
17	光 丘					平 8		
18	熊 毛 北					平 2	63 平 7	
19	下 松				平 7			
20	華 陵	63				平 8	平 1	
21	下 松 工 業	63				平 1		
22	徳 山		定平 4		定平 8			
23	徳 山 北		63			平 4	平 8	
24	徳 山 商 業		平 5	63			平 3	
25	徳 山 工 業						平 4 平 7	平 1
26	鹿 野		平 3				平 1	
27	新 南 陽						平 5	
28	南 陽 工 業	63	平 1			62		
29	佐 波			63	平 7			
30	防 府							
31	防 府 西							平 1
32	防 府 商 業		定63				平 6	平 1
33	山 口		定62			平 2		
34	山 口 中 央	63						
35	西 京	62				平 4	平 7	
36	山 口 農 業					平 5	平 3	
37	宇 部	63						
38	宇 部 中 央		定平 1				63	
39	宇 部 西					62 平 6		
40	宇 部 商 業			63		平 8	平 3	
41	宇 部 工 業			平 2				
42	小 野 田		定63					
43	小 野 田 工 業		定63				平 4	
44	厚 狭					平 4		
45	美 祢			平 1			平 2	
46	大 嶺	62	平 4			63	63	
47	美 祢 工 業							

ピアノ ————— 弘中 孝
マリimba ————— 水野与旨久
フルート ————— 西田直孝トリオ

交響楽団 ————— 山口県交響楽団
尺八と箏 ————— 中村 明一、八木美知依

自主事業実施校一覧

番号	学 校 / 事 業	ピ ア ノ	マリンバ	フルート	尺八と箏 オペレッタ	交 響 楽 団	演 劇	金 管 合 奏
48	田 部					平 1		
49	西 市					63		
50	豊 浦							
51	長 府							平 1
52	下 関 西							
53	下 関 南							
54	下 関 第 一						平 5	
55	下 関 中 央 工 業						平 6	
56	下 関 工 業	62					平 2	
57	響		平 5			平 1		
58	豊 北	62				平 3		
59	日 置 農 業	63	平 5				平 2	
60	大 津	63					平 5	
61	水 産							
62	萩	63				平 3	平 6	
63	萩 商 業	63				平 7	平 2	
64	萩 工 業					平 6	平 4	
65	徳 佐			分 63		63		
66	奈 古					平 1		
67	盲	63	平 3		平 8	平 7	平 1	
68	聾							
69	岩 国 養 護		平 3					
70	田 布 施 養 護		平 6			62		
71	徳 山 養 護			平 1				
72	防 府 養 護	62	平 3	63				
73	宇 部 養 護		63平 5			平 1		
74	下 関 養 護		平 2 平 6					
75	萩 養 護		平 6					
76	下 関 商 業							
77	高 水						62	
78	柳 井 学 園		平 6				63	
79	聖 光					平 2		
80	山 口 県 桜 ケ 丘							
81	三 田 尻 女 子						平 7	
82	多 々 良 学 園							
83	中 村 女 子	63				平 2 平 5		
84	野 田 学 園	63						
85	山 口 県 鴻 城							
86	宇 部 鴻 城					平 7		
87	宇 部 女 子							
88	美 祢 中 央							
89	香 川					平 1 平 5		
90	サ ビ エ ル							
91	早 鞆							
92	下関女子短期大学付属	62 63	平 4		平 7		平 8	
93	長 門					平 6		
94	萩 光 塩 学 園							

オペレッタ ————— 木月 京子

演劇 ————— のんた・宇部芸術座・海峡座

金管合奏 ————— 東京金管五重奏団

62～平8 ————— 実施年度

《山口県高等学校総合文化祭／山口県高等学校文化連盟表彰者》

第12回（平成2年）	功 績 賞 ” 優秀芸術文化賞	五十部益一（前山口県高等学校文化連盟会長） 児玉 明（吟詠剣詩舞部門） 山口県立岩陽高等学校 演劇部
第13回（平成3年）	功 績 賞 ” ” 優秀指導者賞 優秀芸術文化賞	藤井 重孝（合唱部門） 辛嶋 茂樹（吟詠剣詩舞部門） 藤井 哲雄（器楽・管弦楽部門） 藤井 哲雄（器楽・管弦楽部門） 三木 京子（囲碁部門）
第14回（平成4年）	功 績 賞 優秀芸術文化賞 ”	桑野 忠勝（書道部門） 山口県立下松高等学校 吹奏楽部 三木 京子（囲碁部門）
第15回（平成5年）	功 績 賞 優秀芸術文化賞 ”	坂田 哲夫（器楽・管弦楽部門） 弘津 聖也（写真部門） 三木 京子（囲碁部門）
第16回（平成6年）	功 績 賞 ” 優秀芸術文化賞 ”	石井 秀和（前山口県高等学校文化連盟会長） 西村 司（演劇部門） 山口県立下関南高等学校 管弦楽部 三村 貴則（写真部門）
第17回（平成7年）	功 績 賞 ”	繁富 健治（前山口県高等学校文化連盟会長） 重広 昭雄（吹奏楽部門）
第18回（平成8年）	功 績 賞	古谷 信成（マーチングバンド・バトントワリング部門）

《全国高校生文芸コンクール／優秀作品入賞者》

第1回（昭和54年）	小説部門	優秀賞	西村 佳純（山口県立防府高等学校2年）
第2回（昭和55年）		該当者なし	
第3回（昭和56年）	小説部門	優秀賞	坪野 英司（山口県立防府高等学校2年）
第4回（昭和57年）		該当者なし	
第5回（昭和58年）	小説部門	優秀賞	山科 静枝（山口県立防府高等学校2年）
	詩 部門	最優秀賞	福島 祥子（山口県立防府高等学校2年）
第6回（昭和59年）	小説部門	文部大臣奨励賞 最優秀賞 優秀賞	山科 静枝（山口県立防府高等学校3年） 神保 理恵（山口県立防府高等学校3年）
	詩 部門	文部大臣奨励賞 最優秀賞 優秀賞	津田 潮（山口県立下関工業高等学校3年） 福島 祥子（山口県立防府高等学校3年）
第7回（昭和60年）	小説部門	文部大臣奨励賞 最優秀賞	弘中 典子（山口県立下松高等学校3年）
	詩 部門	優秀賞	曾根 祐介（山口県立下関工業高等学校2年）
第8回（昭和61年）	詩 部門	優秀賞	山本 忍（山口県立厚狭高等学校3年）
第9回（昭和62年）	小説部門	優秀賞 "	森上由美子（山口県立下松高等学校2年） 長尾 祐子（山口県立防府高等学校2年）
	短歌部門	優秀賞 "	豊田 幸子（山口県立萩高等学校3年） 温品 由季（山口県立下松高等学校2年）
第10回（昭和63年）	小説部門	優秀賞	温品 由季（山口県立下松高等学校3年）
第11回（昭和64年）	小説部門	優秀賞	大林 晴華（山口県立山口高等学校1年）

※掲載は、最優秀賞と優秀賞のみ

演劇専門部

理事長 石井 末雄
(市立下関商業高等学校教諭)

<1>そのあゆみ

山口県高等学校演劇協議会は、故西村司先生（当時、厚狭高校）の並々ならぬ熱意とたいへんなご苦勞のおかげで、昭和57年4月1日、県下20校の加盟をもって発足した。

「……結成までには、紆余曲折があったが、準備期間6ヶ月……高校演劇に『共通』の『理解』を持った多くの『人』を得て誕生した。」（『山口の高校演劇』p2, 西村先生記）

それまでは、県全体をまとめ、中国大会（昭和38年発足）、全国大会（昭和30年発足）につながる組織がなく、下関地区などは、昭和29年以来「演劇発表会」（下関地区高校演劇連盟主催）を開いていたが、地区大会どまりで、良くいえば和気あいあいと、悪くいえば自己満足的に発表会を続けていた。また、宇部地区では昭和51年以来、中国大会にオープン参加をしていたが、それはあくまでオープン参加で、全国大会につながるものではなかった。この両地区以外の高校は、せいぜい校内の文化祭などに発表の機会をもつにすぎなかった。

この高演協の発足は、実は昭和58年に、山口県が全国高等学校総合文化祭演劇部門を開催することを決定したことが先にあって、そのために急きょ、山口県に高校演劇の組織をつくることを迫られてのことであった。昭和56年、全国大会の視察に行かれた西村先生は、当時の模様を次のように書いておられる。

「大会前日にもたれた、全国高等学校演劇協議会の理事会にオブザーバーとして出席した。議決権のない私は、山口県大会には問題が山積しているが、素朴に、かつ大胆に、山口県高等学校演劇協議会を結成し、全国大会開催の決意を挨拶とした。決意表明はしたものの、高校総文の理解はともかく、県内高校演劇の理解さえ未知数であり、高校現場への依頼、協力体制すら存在していなかった。まさに四面楚歌であった。……同時に、中国高等学校演劇協議会・全国高等学校演劇協議会に加盟し、全国大会への道が正式に開かれ、……」（前記誌P2）

そして、県高演協が発足したその年の11月には、宇部市渡辺翁記念会館で、第1回山口県大会と併せて、早々と第20回中国高校演劇大会を開催したのである。「……活動の第一歩を踏み出したのである。両大会の経験を足場に全国の大会を切り盛りできるか、試金石の場となる大会でもあった。それに、山口県の遅れを一挙に奪回しようとする積極的な意欲がかくされていたことも事実であった。」（前記誌P5）大会は、名実ともに5県揃っての記念すべき大会となり、密度の高い劇場空間が2日間にわたりくり広げられ、成功した。

翌58年には、第29回全国高校演劇大会＝第7回全国高校総合文化祭演劇部門を、同じく宇部市渡辺翁記念会館で開催したのである。中国大会を経験してはいたものの、初めての全国大会で「会場の渡辺翁記念会館は、収容人員1,750人をはるかに上まわり、3,000人の高校生を前に熱演がくりひろげられた。初めての経験でもあり、いささか懸念していたが、日程を終えた時は、すがすがしい涙があった。また正直ホッとした。さまざまな意味で協力していただいた地元の人々に頭を下げるのみであった。……熱演が続き、いずれも代表校にふさわしい真剣かつ情熱的で、若いエネルギーがほとばしる安定した舞台で、参加者を釘づけにした。」（前記誌PP7～8）

山口県高文連が発足した昭和62年には、高演協もその演劇部門に即時加盟したが、山口県の高校演劇にとって特筆すべきことが起こった。昭和63年、県立岩陽高等学校が中国大会で最優秀校となり、待望の全国大会出場権を得たのである。山口県に組織ができて7年目、県高文連演劇部

門に加盟した翌年のことであった。中国地区には、全国大会出場常連校である舟入高校（広島県）をはじめとして、各県の強豪がひしめいているだけに、それは、まさしく画期的な出来事であった。岩陽高校の演劇部員と当時の顧問であった倉田恵子先生の熱心な努力が実った輝かしい成果であり、栄誉であったが、同時に、山口県の高校演劇のレベルを全国水準にまで引き上げてくれたものであった。また、高文連の財政的援助がそれを支えてくれたことも見逃すことはできない。岩陽高校に続いて全国大会への出場校が生まれることが期待されている。

平成9年10月には、第16回県大会を下関市で開催する予定で今日に至っている。

<2>その組織について

発足当時20校であった加盟校は、徐々にふえて、現在では次の36校になっている。

[安下庄、岩国、岩陽、高森、熊毛北、光、下松、華陵、新南陽、桜ヶ丘、防府、防府西、防府商、山口、山口中央、西京、山口農、中村女子、県鴻城、宇部、宇部中央、宇部西、香川、サビエル、厚狭、田部、豊浦、長府、下関西、下関南、下関第一、下関工、下関商、響、梅光女学院（高文連未加盟）、大津]

地区割りとは、岩国、柳井、徳山、山防、宇部、下関、萩の7地区となっているが、加盟校の片寄りがあって、実際には周防地区・山防地区・宇部地区・下関地区の4地区である。

地区大会は、毎年8月の夏休み中に開催し、参加校の数によって各地区から1～3校が県大会に出場できるようになっている。

県大会は、毎年10月か11月に上記4地区の輪番制で開催することになっている。県大会の参加校は最高時9校（昭和60年・61年）で、ここ数年は8校となっている。

<3>活動内容について

1) 毎年の県大会には、講師兼審査員としてプロの演劇人をお招きし、幕間講評と総評をお願いしている。プロの立場からなされる講評や総評は非常に有意義なものである。具体的な舞台づくりや演技の指導から『演劇とは何か』という本質にいた至るまで話しがおよび、参加している高校生や顧問に大きな影響と刺激を与え続け、県高校演劇のレベルの向上に重要な役割をはたしているといえよう。

2) 毎年3月には、上記4地区の輪番制で講習会を開いている。これにも県高文連から財政的援助があり、たいへん助かっているが、内容は、プロやアマチュアの演劇人を招いて、実技のこまかい指導や、合同講演の講評や演劇の本質についての講演を開くなどバラエティに富んだものとなっている。県高校演劇のレベルの向上のためには欠くことのできないものとなっている。

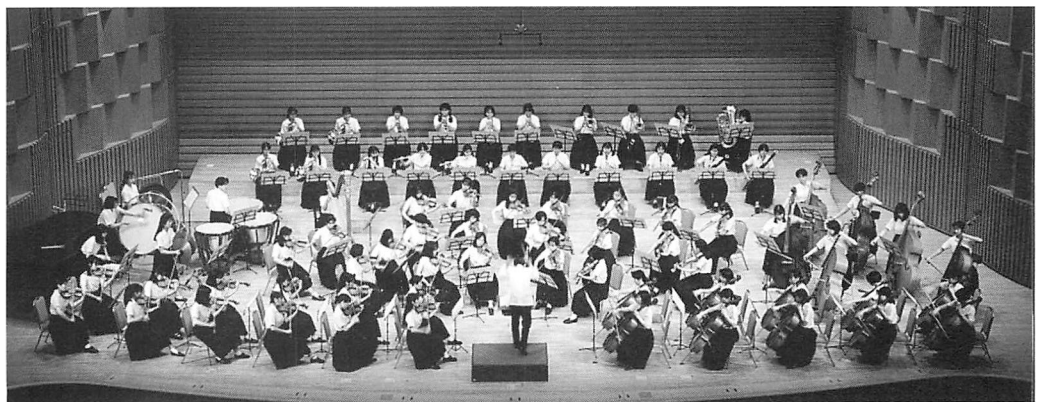
器楽・管弦楽専門部

理事長 松 永 忠 雄
(山口県立下関南高等学校教諭)

[沿革]

- 昭和62年 4 月 山口県高等学校文化連盟設立。規約 6 条による10専門部に「管弦楽・合奏」部会が設置される。初代理事に河中正登氏（下関南高等学校校長）と松永忠雄（同校教諭）が選出される。
- 6 月 防府市公会堂で設立式典を挙行。「合唱部門」と合同で慶祝演奏を行う。
曲目：ヘンデル作曲“ハレルヤ・コーラス” 佐藤 真作曲“大地讃頌”
演奏：管弦楽 5校120名（下関南・防府・大津・山口中央・下関第一高）
指揮：松永忠雄（下関南高）
※ 以後、第13回大会まで毎年、開幕式典で山口県高等学校管弦楽団として合同演奏（指揮者は交代）を行う。
- 6 月 第 9 回山口県高等学校総合芸術文化祭 音楽部門（防府市公会堂）
「管弦楽・合奏」部会より10校304名が参加出演。
※ 以後、19回大会まで毎年、「管弦楽・合奏」部門より 7～10校、300名～350名が参加出演。
- 昭和63年 8 月 第12回全国高等学校総合文化祭・熊本大会に下関南高（管弦楽）が参加出演。
- 10月 昭和63年度全国学校合奏コンクール・中国大会で下関南高が最優秀賞受賞。
- 平成元年 3 月 第 8 回山口県高等学校器楽・弦楽スプリングコンサート（防府市公会堂）に山口県高等学校文化連盟との共催により 8 校、約300名が参加出演。
- 4 月 「管弦楽・合奏」部会を「器楽・管弦楽」部会と改称。理事制から専門部会長・理事長制に。初代部会長に橋本賢郎氏（下関南高等学校校長）・理事長に松永忠雄同校教諭）が就任。
- 8 月 第13回全国高等学校総合文化祭・岡山大会に熊毛南高（ギター）が参加出演。
- 平成 2 年 3 月 第 9 回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート（サンビームやない）
この大会より主催が山口県高等学校文化連盟「器楽・管弦楽」部会となる。
※ 以後、第16回大会まで毎年 7～8 校、約300名が参加出演。
- 8 月 第14回全国高等学校総合文化祭・山梨大会に下関第一高（管弦楽）が参加出演。
- 平成 3 年 4 月 2 代目部会長に三浦 寛氏（下関南高等学校校長）が就任。
- 6 月 第13回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（光市民ホール）において藤井哲雄氏（熊毛南高）が芸術文化功績賞・優秀指導者賞を受賞。
- 8 月 第15回全国高等学校総合文化祭・香川大会に岩国高（ギター・マンドリン）が参加出演。
- 平成 4 年 6 月 第14回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（徳山市文化会館）
この大会より合同演奏曲目を従来の“ハレルヤ・コーラス”からワグナー作曲の“タンホイザー大行進曲”に変更（シアター・トランペット団編成）。
- 8 月 第16回全国高等学校総合文化祭・沖縄大会に防府高（管弦楽）が参加出演。
- 平成 5 年 6 月 第15回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（山口市民会館）において坂田哲夫氏（厚狭高）が芸術文化功績賞を受賞。

- 8月 第17回全国高等学校総合文化祭・埼玉大会に柳井高（管弦楽）が参加出演。
- 11月 平成5年度全国学校合奏コンクール中国大会で下関南高が最優秀賞受賞。
- 12月 同全国大会で同校が優良賞（第3位）受賞。
- 平成6年4月 3代目部会長に荒巻大拙氏（下関南高等学校校長）が就任。
- 6月 第16回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（宇部市渡辺翁記念会館）において下関南高管弦楽部が優秀芸術文化賞を受賞。
- 8月 第18回全国高等学校総合文化祭・愛媛大会に山口中央高（弦楽合奏）が参加出演
- 12月 全国学校合奏コンクール全国大会で下関南高が2年連続優良賞（第3位）受賞。
- 平成7年6月 第17回山口県高等学校総合文化祭総合文化祭総合開会式（下関市民会館）でベートーヴェンの“第九”第四楽章を慶祝演奏。
- 8月 第19回全国高等学校総合文化祭・新潟大会に下関南高（管弦楽）が参加出演。
- 11月 平成7年度全国学校合奏コンクール中国大会で山口中央高が最優秀賞受賞。
- 平成8年4月 4代目部会長に松井忠夫氏（下関南高等学校校長）が就任。
- 8月 第20回全国高等学校総合文化祭・北海道大会に熊毛南高（ギター）が参加出演。
- 11月 平成8年度全国学校合奏コンクール中国大会で下関南高が最優秀賞受賞。
- 12月 同全国大会で同校が優秀賞（第2位）受賞。



吹奏楽専門部

理事長 椎 木 浩 二
(県立徳山高等学校教諭)

本部会は県下約65校の参加校のもとで組織、運営しています。
毎年6月に開催されます山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会には本部会から約55校2,300人の生徒達が参加します。また、前日に開催されます総合開会式においては、主管地区でモデルバンドを編成し、式典及び慶祝演奏に参加します。
夏に開催されます全国高等学校総合文化祭には、前年度実施した吹奏楽コンクール等で優秀な成績を収めた団体の中から、部会総会で推薦された団体が毎年出演しております。
本部会研修会は、全国的に活躍されている著名な指揮者、吹奏楽指導者を講師としてお招きし、バンドクリニックや講演会を毎年開催しております。
本部会の運営は、部会規約を制定し、全会員の総意に基づく民主的な運営方針をとり、県下の高等学校における吹奏楽の発展と振興に寄与したいと努力しております。

○全国高等学校総合文化祭吹奏楽部会代表推薦内規

第1条 山口県高等学校文化連盟規定及び山口県高等学校文化連盟吹奏楽部会規約の第4条の(2)に定められた事業の一環として、吹奏楽部会推薦内規を次のように定める。

(参加資格)

第2条 全国高等学校総合文化祭開催基準規定代10条に基づき、参加資格を有する者を推薦する。
(推薦候補)

第3条 次の各号の一に該当する者を推薦候補とする。

- 1、前年度実施された山口県吹奏楽コンクール大会A部門で金賞を受賞した上位8位以内の者。ただし、部会総会開催前に関係所属長の了解を得ておくものとする。
- 2、地区単位で団体構成し、その活動が顕著で演奏技能が高く評価されている者。ただし、2年前に立候補の意思表示をし、部会総会開催前に関係所属長の了解を得ておくものとする。

(推薦決定)

第4条 前条の推薦候補の中から、地区代表理事会にて過去の出場回数を考慮して推薦校を選考し、その年度に開催される部会総会で決定する。

(参加旅費)

第5条 参加に関する旅費等は、山口県高等学校文化連盟旅費支給基準第3項に準じて支給する。

附 則

この内規は、平成9年12月9日から施行する。

○山口県高等学校文化連盟吹奏楽部会規約

第 1 章 総 則

(名称)

第1条 本部会は、山口県高等学校文化連盟吹奏楽部会と称する。

(事務局)

第2条 本部会の事務局を会長の指定する場所におく。

(目的)

第3条 本部会は、山口県高等学校文化連盟規約第3条に則り、高等学校における吹奏楽の発展と振興に資することを目的とする。

(事業)

第4条 本部会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校等による文化的行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業



- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第5条 この部会は、山口県内の高等学校（盲・聾・養護学校の高等部を含む。以下同じ）をもつて組織する。

第 2 章 役 員

(役員)

第6条 部会に、次の役員を置く。

- | | | | |
|-----------|-----|------------|-----|
| (1) 会 長 | 1 名 | (3) 地区代表理事 | 7 名 |
| (2) 理 事 長 | 1 名 | (4) 事務局 | 若干名 |

2 前項の役員のほか、顧問を置くことができる。

(役員の選出)

第7条 役員の選出は次によるものとする。

- (1) 会長及び理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、山口県高等学校文化連盟会長が委嘱する。
- (2) 地区代表理事は、各地区理事の互選によって選出し、会長が任命する。
- (3) 事務局は、会長が委嘱する。
- (4) 顧問は、総会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第8条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、部会を代表し、会務を統括する。
- (2) 理事長は、会長を補佐する。
- (3) 地区代表理事は、本部会の会務を審議し、執行する。
- (4) 事務局は、会長及び理事長の命を受けて事務を掌理する。
- (5) 顧問は、会長の諮問に応ずる。

(役員の任期)

第9条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、全任者の残任期間とする。

第 3 章 会 議

第10条 この部会の総会は、1年に1回会長が招集する。また、会長が必要に応じて、これを招集することができる。

2 総会の議長は、その都度構成員の中から選出する。

3 総会は、構成員の2分の1以上の出席により開会し、議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決する。

(地区代表理事会)

第11条 地区代表理事会は、次の事項について審議する。

- (1) 会長及び理事長から委任された事項
- (2) 総会へ提出する議案
- (3) その他必要な事項

附 則

この規約は、平成9年12月9日から施行する。

合唱専門部

理事長 石 島 栄 子
(野田学園高等学校教諭)

山口県に念願の高文連が結成され早くも10年が過ぎましたが、今でも思い出されるのは、その前の準備の段階の日々であります。

高文連の華やかな活動の陰で、文化部は金銭的なバックアップもなく、肩身の狭い心細い状態でありました。しかし皆の熱意で、県内の活動は・県連合音楽会・NHK学校音楽コンクール・AJCL（全日本合唱連盟）コンクール等への参加等、地道で熱いものがありました。

丁度そのころ'81年総体の山口県開催。

「高校総体に協力することで、山口県高校生の文化部の重要性を認めてもらおう」という熱い思いで、文化部の一大結束を誓った頃を思い出します。合唱部、管弦楽部、吹奏楽部、バトントワリング部等、各部門の合同チームを結成。何回も練習を重ねながら、私たち合唱部会は、当時宇部高校の三隅洋子先生のご熱意の元でとてもいい勉強をさせていただきました。

真夏の太陽の元、感動的な'81総体開幕式典の音楽は、また県高校総文発足の確かな胎動の歌声であったように思います。紙面を借りて心より、三隅先生にお礼申し上げます。残念ながら三隅先生はその年度で退官なさいましたが、翌年高文連が発足、宇部中央高校の中尾綾子先生が三期・6年間に亘って理事長を務められ、しっかりと基礎を固められました。

発足後の一大行事は何といっても平成3年3月の、山口県高校生合唱団による韓国慶尚南道訪問演奏会です。計画及準備は大変なものでしたし県内高校生の人選から各地での合同練習会、ハングル文字や、韓国語、また韓国文化の勉強会……と、いま思えば繁富高文連会長や、中尾理事長のご苦労はいかばかりであったかと思われます。韓国高校生との交歓演奏会でのハレルヤとサランへの合同演奏、その後の会食交歓会では、あっという間に両国の高校生同志仲良くなることができ、音楽と食事はまさに世界の心を結ぶ、最高のものではないかと改めて実感しました。

7年目から野田学園高校の石島が理事長を受け継ぎ皆様に助けられ今日に至っております。引き続き毎年高文連より頂いております研修費で素晴らしい先生をお呼びして合唱の発声や曲作りの講習会を開催していますが教師ともども生徒の成長のためにぜひ続けていきたいものだと思います。

高文連開幕式典での管弦楽部門と合唱部門の合同演奏も各方面のご協力のおかげで毎年実現、大変ではありますが、大きい感動につながり、高校生の青春の1ページを彩る大切な行事になっているようです。オーケストラの音と響き合い、ある年はハレルヤと大地讃頌、ある年はタンホイザーと大地讃頌、ある年はベートーベンの第九の4楽章の歌声が鳴りわたりました。

また毎年全国高校総合文化祭に合唱部門も参加させて頂き、全国の合唱仲間との交流も深まり、合唱のレベルアップにも役立っています。(全総文と県総文については以下の表をご覧ください。)

芸術文化は人間が人間らしく生きるために何より大切なものであることに目覚め、文化をすることに誇りを持ち、芸術を愛する、また芸術を尊ぶ人を育ててゆきたい。国際社会に通用する人(文化を愛する人)を育てるのが、文化連盟の仕事だと自負し頑張っていきたいものであります。

私たちは文化をもっともっと良い意味で楽しんでも良いのではないのでしょうか。そういう意味で山口県にも一日も早く、体育館で音楽する時代が去り、各校に備えられた文化ホールに、音楽が柔らかく響き、そこで高校生は心を揺さぶる公演を聴き、美しい壁には美術作品が光を放つ日の到来することを祈って止みません。

芸術と平和よ、永遠にここに止まれ！……タンホイザーより

●高文連発足以来の主な行事

年度	開幕式典開催地／曲目	合唱講習会開催地／講師	全国高総文参加校／開催地
昭和62年	防府公会堂／大地讃頌 ハレルヤ		野田高／名古屋
昭和63年	萩市民館／大地讃頌 ハレルヤ		萩 高／熊本
平成元年	下関市民館／大地讃頌 ハレルヤ		香川高／岡山
平成 2 年	岩国市民館／大地讃頌 ハレルヤ	山口県教育会館／関谷先生	防府高／山梨
	韓国慶尚南道訪問 大地讃頌 ハレルヤ サランヘ こだま おおシャンゼリゼ NHK課題曲 他		
平成 3 年	光市民館／大地讃頌 ハレルヤ	宇部短大ホール／鈴木先生	宇部中央高／香川
平成 4 年	徳山文化会館／大地讃頌 タンホイザー	山口県教育会館／鈴木先生	野田高／沖縄
平成 5 年	山口市民会館／大地讃頌 タンホイザー	山口県教育会館／矢田先生	萩 高／埼玉
平成 6 年	宇部市渡辺翁記念会館／大地讃頌 タンホイザー	宇部短大ホール／矢田先生	防府高／愛媛
平成 7 年	下関市民館／ベートーベン 第 9	下関西高校体育館／矢田先生	宇部中央高／新潟
平成 8 年	萩市民館／大地讃頌 タンホイザー	萩市民館／片山先生	野田高／北海道



マーチングバンド・バトントワリング専門部

理事長 花村 慈 照

(宇部女子高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟10周年記念誌『山口県高文連10年のあゆみ』の発行おめでとうございます。

＜概要＞（沿革、組織、事業について）

私達のマーチングバンド・バトントワリング部会は発足当初より高文連に参加し、現在に至っております。部会に参加する以前は、マーチングバンドは吹奏楽連盟に加入・活動続け、音楽祭等に参加されており、一方バトントワリングは各校独自で学校行事や地元のイベント等に参加し活動しておりましたが、山口県で開催された第7回全国高等学校総合文化祭山口県大会（昭和58年8月）に、マーチングバンド・バトントワリング部門に初めて県内より6校（マーチングバンド部門に岩国工業高等学校、岩国商業高等学校、バトントワリング部門にはサビエル高等学校、早鞆高等学校、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校）が参加し、素晴らしい演奏・演技を披露しました。それをきっかけに、山口県のマーチングバンド・バトントワリングの発展のために、その年の山口県高等学校総合文化祭の音楽部門にバトントワリングが参加し、ステージドリルの演技を行った。その後毎年参加することになりました。また昭和61年山口県で開催された全国高等学校総合体育大会のアトラクションに参加し、はじめてマーチングバンドとバトントワリングが共演することになりました。高文連発足と同時に、バトントワリングとマーチングバンドが一つとなり部会を結成されました。この部会は他の部会と比べて大変派手ですが、発足当時より参加校が少なく、悩みの一つです。

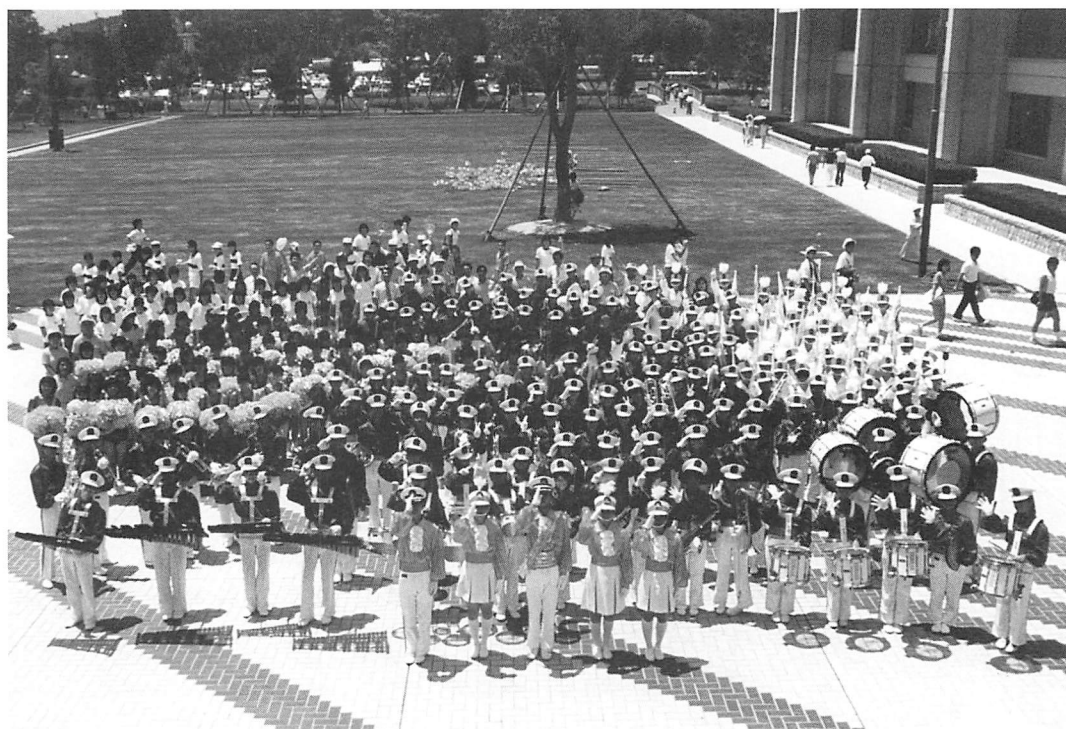
年間の行事としては、毎年6月に開催される山口県高等学校総合文化祭にマーチングバンド・バトントワリングのステージドリルで参加をし、8月に開催される全国高等学校総合文化祭には、毎年マーチングバンドに1校、バトントワリングには山口県合同チーム（2、3校）を編成し参加しており、それ以外については、県内外でコンテストに参加し、また各校ごとに学校行事や地元のイベント等に参加し、素晴らしい成果を上げています。



全総文参加風景



マーチングバンド（山口鴻城高等学校）ドリル風景



'61総体／マーチングバンド・バトントワリング参加者の風景



県総文祭・バトントワリング部のステージドリル（宇部女子高等学校）

日本音楽専門部

理事長 中野靖子
(中村女子高等学校教諭)

私たち民族は伝承された固有の芸術文化をもちますが、とりわけ箏曲は新鮮な印象を与えてくれます。日本の古き良き伝統文化のすばらしさを理解し、継承し、発展させていかななくてはいけないと感じたのが昭和55年のことでした。

昭和56年中村女子高校を主管校として山口県視聴覚センターで、ほそぼそとスタートしました。翌年、様々な障害が予想され、果たして各学校の参加を得られるだろうか、正直危ぶんでいましたところ、14校の参加があり安堵したことが昨日のように思い出されます。

昭和58年夏、酷暑の中、第7回全国高等学校総合文化祭が山口県で開催され、全国から8,200名の高校生を迎えて、大成功裡に終わりました。この時は邦楽部門と言っておりました。全国48校、そのうち山口県から7校が教育会館大ホールで演奏し、人間国宝島原帆山先生の模範演奏が観客を魅了しました。

昭和59年から主管校は、まわりもちにしました。昭和61年、山口県教育委員会を中心に設立準備委員会が設けられ、高文連設立に向けて着実な動きが起こっている頃でした。この頃は邦楽部門も毎年定期的に演奏され参加校も増え、安定期に入っていました。

昭和62年6月20日、防府市公会堂で加盟校の代表生徒が持ち寄った校旗の林立する中で、山口県高等学校文化連盟は産声をあげたのです。初代会長は五十部益一校長でした。この時は、音楽4部門、演劇、日本音楽、吟詠剣詩舞、展示3部門の計10部門。各部門とも会議で論争したものです。高等学校文化連盟の発足とともに、邦楽部門も日本音楽部門という名称に変わりました。

平成3年、高文連も二代会長・繁富健治校長の時、韓国慶尚南道親善訪問文化交流事業の一環として、韓国慶尚南道の高校生との交流という一大イベントがとり行われました。その交流事業に日本音楽部門と合唱部門が親善訪問することになりました。我が部門から15名（山口高校2名、防府高校5名、中村女子高校3名、県鴻城高校2名）は、3月27日KBS昌原放送局での演奏のため、防府高校と中村女子高校を行ったり来たりの練習に励んだものでした。第1回合唱部を交えての合同練習会が防府高校で開かれたものの、十分な出来ではありません。いらいばかりが残ります。時の流れは容赦無くやってきます。いよいよ3月22日結団式、緋毛せんの上での緊張感、3月25日出発、3月27日いよいよ本番、箏の調べが1,800人の観客をゼロにしました。終わったあとのあらしのような握手攻め、音楽に国境はありません。演奏会は日韓両国の高校生の力が彩なす感動そのものでした。あれから5年の歳月、苦労を共にした85名の団員は、部活の発展をいつも願っていると思います。

日本音楽も回を重ねること16回、平成9年度は17回目を迎えます。一時期、日本音楽も20校を越える参加、人数も何百人という隆盛をなしたこともありましたが、時代の波といいたいでしょうか、洋楽ブームのためか、はたまた生徒の部活離れのためか、衰退をよぎなくされている現状に悲しみを覚えます。

邦楽部門から日本音楽部門へと、初めから係わった者として、我が国の伝統的な文化を高校生の皆さんが、感性あふれる若さによってますます発展・向上してくださることを期待しております。

10年間、理事長としてご支援いただきありがとうございました。



吟詠剣詩舞専門部

理事長 藤井美恵子
(聖光高等学校教諭)

吟詠部発足の経緯にお詳しい萩工業高校をご退職された児玉先生に、発足当時の頃の事を書いていただくようお願いしたところ、快くお引受下さり、全国高文祭山口大会の時の思い出を書いて下さいました。読み進んでいくうちに、私も当時の頃のことを蘇り懐かしく当時をしのび、あれから十数年の歳月が過ぎたのだと思うと感慨深いものがあります。

山口大会の時は、私の学校も吟詠クラブができてまだ3年目。でも大会を成功させねばと、自分のクラス全員を引き連れて大会に臨みました。吟題は「烈日」という構成吟。これは昨今「原爆記念日感有り」と題して発表されているものの先駆けとなっています。この大会の時は、山口の宿という宿は満杯になりました。リハーサルを済ませた生徒は、瑠璃光寺のご好意で寺に泊めて頂きました。森閑とした庫裡での一泊は、生徒にとって最高の思い出になっていることでしょう。

この大会を機に、県内高校の文化活動も又吟詠部の活動も活発になり、それは昭和62年6月の高文連結成を促しました。この結成式は華やかなものでした。中でも防府市公会堂の舞台に、県下の高校生が校旗を掲げて並んだ様は、会場一杯に若さがみなぎり壮観そのものでした。

吟詠剣詩舞部門は、これを契機にして山口県高文連の式典の慶祝演奏、高文連の県大会、全国大会に毎年出場してきました。それらを次の表にしてみました。

◎山口県高文連総文祭

年次	会場	出場校	吟 題
昭和62年	下関女短大付属講堂 聖光	下関工業、萩工業、 「壁に題す」	「焦心録後に題す」
63年	中村女子高校講堂 下関女短付属	下関工業、萩工業、聖光、	「吉田松陰」
平成元年	聖光高講堂 下関女短付属	下関工業、萩工業、聖光、	「高杉晋作」
2年	サンビームやない	下関工業、聖光、下関女短付属	「山口県の歴史を詠う」
3年	中村女子高講堂	下関工業、聖光	「下関の歴史を詠う」
4年	萩市民館	下関工業、聖光、中村女子	「西の京・山口」
5年	岩国勤労福祉センター	下関工業、聖光、中村女子	「吉田松陰」
6年	下関市文化福祉会館	下関工業、聖光、中村女子 サビエル	「山口県の歴史を詠う外」
7年	サンビームやない	聖光、中村女子、サビエル	「原爆記念日感有り」
8年	山陽町文化会館	聖光、中村女子	「原爆記念日感有り」

◎全国高文連総文祭及びその他事項

年次	会場	その他
昭和62年	愛知県一宮市	山口県文化連盟発足
63年	熊 本 市	
平成元年	岡 山 市	
2 年	山梨県甲府市	県の教育会主催大会出場
3 年	香川県高松市	県の教育会主催大会出場
4 年	沖縄県宜野湾市	県の教育会主催大会出場
5 年	埼玉県川越市	
6 年	愛媛県新居浜市	
7 年	新潟県燕市	
8 年	北海道小樽市	

上記の表には表われていないが、各校独自に老人ホームや地区の行事に招かれて、吟や詩舞を披露し、各方面から大層喜ばれたことも申し添えておきます。又、全国大会が山口で開催された時は、正課クラブとして活動している学校、例えば下松高校等の参加もありましたが、その後段々と限られた学校のみ活動するようになってしまいました。そこで、これらの学校だけでもこの部門を活発な活動にしようと、初代理事長の辛嶋茂樹先生のご尽力で、昭和62年に山口県高等学校文化連盟が発足しました。以後、全国大会にはこの文化連盟で発表するようになりました。そして、吟で山口県を、山口県の心を、全国の高校生にアピールしようと、吉田松陰や高杉普作を題材にしたもの、また、山口・下関・萩に因んだ構成吟を吟題としたものを、力強く発表してきたと自負しております。しかし、次期理事長にこれを引き継ぐことができないまま、私が退職いたしますことは慚愧に耐えません。

諸般の事情でしばらく休部することになりましたが、近い将来又復活することを心からお祈りいたします。最後になりましたが、事務局の先生方をはじめ各部門の諸先生方、本当に有難うございました。とりわけ日本音楽部門の中野先生には毎年の山口県大会で、ひとかたならぬお世話をいただきましたことを心よりお礼申し上げますと共に、高文連が益々発展いたしますことを願ってペンを置きます。有難うございました。



美術・工芸専門部

理事長 庄 島 信 基
(厚狭高等学校教諭)

○山口県高校総文祭 展示関係部門＜美術・工芸＞の歩み

山口県が昭和58年8月、第7回全国高校総合文化祭を引き受け、資料づくりや準備に明け暮れた日々。37度を越える炎天のパークロードに行くパレードの情景。全国から送られてきた代表作品が県立美術館の壁を埋めた様は熱気に満ち満ちていた。それを契機に山口県にも高文連が生まれ、活動の基盤も整備された。昭和59年の第6回までは、展示会場の都合でもっぱら県立美術館と宇部市文化会館を使用していたが、昭和60年第7回を新しく完成した下関市美術館（下関第一高校主管）で行なって以後、第8回岩国市文化会館（岩国高校主管）、第9回防府市公会堂と文化福祉会館（防府西高校主管）、第10回徳山市体育館（徳山高校主管）と各都市を巡回する形になっている。以降は高文連冊子の記録から抜粋し要約することとする。第11回は萩工業高校主管に平成元年12月1～3の3日間、萩市民館および隣接するサンライフ萩を会場に行なわれた。12月1日午前11時来賓に萩市教育長、文化連盟会長、県文化課長、主管校および担当校校長列席のもとに、萩市民館のロビーでオープニングセレモニーが行なわれた。地区高校生と関係教員約百五十名が参加した。そして続く代表者7名のテープカットにより開始された。最終日は9時開展に続き13時より講評会、14時より萩焼作家野坂康起氏の講演会が催された。第12回は柳井高校を主管に、平成2年10月26～28の3日間、柳井市体育館・柳井文化福祉会館を会場に行なわれた。スポーツの盛んな市にこの時期この施設を借りるに大変な御苦労があったと思う。広々としたフロアーを自在にレイアウトした展示はとても意義深かった。関係各方々に対して感謝の一言に尽きる。最終日は13時より講評会、14時から岩国短大教授の川口健治氏の「私の絵画生活」と題された講演は、聴く者に親しみを与え有終の美を飾ったと思う。

第13回は宇部工業高校主管に、平成3年8月17～19の3日間宇部市文化会館で行なわれた。今年度から新しい試みとして展示部門では最優秀が設けられ、美術・工芸部門156点の内16点を優秀賞とし、更に内4点が全国総文祭への候補作品と決定した。

第14回は宇部中央高校を主管に、平成4年8月宇部市常盤湖水ホールで行なわれた。平成5年の全国高美工研山口大会を控えて、リハーサルを兼ねた会場利用でもあり、各校が50号の大作に挑戦して会場を盛り上げた。

第15回は西京高校を主管に平成5年8月21、22の両日、山口市市民館小ホールで行われた。会場借用の都合上2日間の開催になったのはやむをえなかったし、会場としては狭い為、展示設営に苦慮されたと思う。

第16回は豊浦高校主管で平成6年8月25～28の4日間、下関市立美術館で行われた。天井は高くゆったりとした壁面を使った展示は楽しく鑑賞できた。最終日に副館長木本信昭氏の香月泰男にまつわる講話を拝聴でき、興味は一層深まった。

第17回は岩陽高校主管で平成7年11月25、26の両日、岩国市民会館で行われた。借用に関しては、予算では2日間の開催であったが、今後再考の必要があると思う。美術・工芸は136点の展示で14点を優秀作として選出した。

第18回は防府高校主管で平成8年11月15～17の3日間、デザインプラザ防府とサンライフ防府の二会場で行われた。どの部もゆったりと取られたスペースでの鑑賞は良い状況だったと思う。初日のオープニングセレモニーは少し風が強く寒い感じもしたが、関係者の万端の準備で立派な

式となった。

第19回は下松高校主管で平成9年11月7～9の3日間、徳山市美術博物館で行われる予定である。

○全国高校総文祭の歩み

平成2年度は8月1日から真夏日の甲府盆地山梨県立美術館で行われた。絵画は油彩50号が主流だが圧倒的に多かった静物画から、少しずつバラエティに富んだ題材が選ばれるようになっていく。柳井高校 金澤章代「自画像」、徳山高校 野村明美「ひまわり」、野田学園高校 定金正嗣「自画像」が出品された。デザイン、彫刻、工芸からは該当なし。平成3年度は、香川県高松美術館で8月1～4日間展示が行われた。全総文への出品作品が前年度の山口県内優秀作品からの関係上3年生の作品が出せない。他県と比較すると力負けしている。再考の必要がある。柳井高校 坂本雅子（絵画）、大嶺高校 古谷正行（絵画）、萩工業高校 竹下達麻（絵画）、西京高校 河村さよ美（彫刻）、宇部女子高校 西村幸恵（デザイン）の5名が参加である。平成4年度は8月4～6日間沖縄県那覇市で行われた。日頃行く機会が少ないだけに、出品者にとって夏の沖縄は大変魅力のあるものであったろう。参加者は山口高校 上坂美礼「先生」、山口中央高校 横田文恵「静物」、西京高校 坂根弓子「友人」の3名である。平成5年度は埼玉県立近代美術館で行われた。埼玉県内展示場に鍛金（工芸）等の作品が数多くあったことが特に印象深く残っている。出品は高森高校 朝木 桜「最後の夢を見る君へ」、柳井高校 古谷亮子「菖蒲園」、山口中央高校 向井千哉子「或る女」、大津高校 入江葉子「牛骨のある静物」、宇部女子高 掛橋理枝子の5点である。平成6年度は8月4～6日愛媛県松山市県立美術館で行われた。当年の夏は折りからの水不足で参加者はともかく主催者側はさぞかし大変だったと思われる。各県が郷土を紹介すべき様々な装いで趣向をこらしたパレードは、高校生の熱気が伝わり圧巻であった。徳山高校 河村公子、山口高校 矢野容子、西京高校 林裕二、宇部高校 福山由維、大津高校 伊藤理恵の各作品が出品された。平成7年度は8月4～6日新潟県長岡市、県立美術館に展示して行われた。隣接した体育施設では新潟県内高校作品展が同時に行われ、大作の多さに圧倒された。また、会場には共に広く大きい作品も堂々と受け入れる器の大きさがうれしい。平面、立体共に力感溢れる作品が多かった。山口から山口高校 矢野容子、宇部中央高校 後藤桂子、下関商業高校 大柿美佳、下関中央工業高校 上野陽介、萩工業高校 末益慶子の5名が参加した。平成8年度は北海道札幌市、道立近代美術館を会場に展示して行われた。8月6～9日間である。美術館の東半分を高総文展に西半分は有料の展覧会が入っていた。我々も有料展に入った様に、一般客の方も多く高総文展に入場していたのは良かったと思う。真夏日の本土とは信じ難い気温差で、参加者は快適に動け、何よりの話題になったと思う。熊毛南高校 土網香代、徳山高校 延原安輝子、山口高校 森野浩子、西京高校 平田隆之、萩高校 乙丸奈緒の5名参加である。平成9年度は奈良県の開催で8月7日～10日奈良県立美術館で行われる予定である。宇部高校 平田哲夫「牛骨のある静物」、と中明聖晴「発動機」、野田学園高校の土山直也「自画像」、宇部商業高校の深川智世「有刺鉄線（デ）」、西京高校の山川由利子「デザイン」が出品候補となっている。平成10年度は鳥取県が開催予定となっており、大会に向けて準備中と思われる。山口県も出きる範囲の協力が必要である。今年よりハーサル大会を予定していると思う。以上記録に留めたが、県内慶祝展示については、開催地域を中心とした生徒作品展示をお願いしている。

書道専門部

理事長 荒瀬 宏
(徳山高等学校教諭)

書道部門では、昭和53年全総文兵庫大会に3校（山口高、宇部工高、小野田工高）が初出品した。それ以来、桑野忠勝先生は数年にわたり全国の高校文化活動の視察を繰り返しながら、山口県高文連発足を期して、高い見識をもって数々の提言をされた。また、松田政道先生は文化課指導主事として全総文山口大会準備に尽力され、簡素な中にも充実した大会となった。

この会の講評会講師として、吉田鷹村先生（東学大教授）が来県され、“もっと高校生らしい書を書け！将来は漢字仮名交じりの書を研究せよ…”と熱っぽく語られた。自分のことばを自分の書風で書くことの大切さを力説され、教師生徒ともに感動した。

以下10年間の県内展示発表会、全総文出品状況、部門会議の概要について略記する。

※昭和62年12月25日～27日 於・防府市文化福祉会館 主管校・防府西高（藤川）

☆30校 82点出品 ☆極楽寺住職のお話

※昭和63年12月2日～4日 於・徳山市体育館 主管校・徳山高（藤井）

☆38校 122点出品 ☆極楽寺住職のお話

※平成元年12月1日～3日 於・萩市民館 主管校・萩工高（古賀）

☆43校 141点出品 ☆萩焼作家・野坂康起「焼物との出会い」

☆部門会議…自刻印の作成、作品題名の表示法の統一化、臨書と創作との割合を考える

☆全総文（岡山）出品参加 山口高3年（岡砂夕理-創作） 宇部工高2年（井上司-隷書）
高水高3年（河野順子-楷書）

※平成2年10月26日～28日 於・柳井市体育館 主管校・柳井高（竹田）

☆6月16日 総合開幕式典慶祝書道吟 高水高・書×吟「錦帯橋」

☆35校 125点出品 ☆岩国短大教授・川口健治「私の絵画生活」

☆部門会議…講評会への参加者を多くしたい、作品形式の多様化を研究する

☆全総文（山梨）出品参加 下関西高3年（沢田勉-草書） 宇部商高2年（福田亜矢子）
高水高3年（河野順子-楷書）

※平成3年8月17日～19日 於・宇部市文化会館 主管校・宇部工高（松田）

☆6月14日 総合開幕式典慶祝書道吟 徳山高・書、聖光高・吟「室積の月」

☆35校 118点出品 ☆宇部短大教授・大東和人

☆部門会議…部門研修費を活用した教員書作展開催、以後毎年開催（於山口市民館、下関市立美術館）

地区委員（岩見屋、高山、有富、古屋、岡、生田、佐川）

☆全総文（香川）出品参加 野田学園高2年（高橋和樹-行書） 宇部中央高3年（阿川真由子-行書） 山口中央高3年（中能久仁子-草書）

※平成4年11月13日～15日 於・ときわ湖水ホール 主管校・宇部中央高（白岩）

☆6月19日 総合開幕式典慶祝書道吟 徳山高・書、聖光高・吟「興元の晩鐘」

☆31校 153点出品 ☆山大教授・秋山 泉「芸術の作品制作について」

☆部門会議…1校2mの有効な壁面活用を考え、日頃の部活動のありのままの姿を展示した。

大・小の作品が老人会の発表？と揶揄された。現有の半切サイズに統一する。

☆全総文（沖縄）出品参加 香川学園高3年（倉田幸枝-創作） 防府高3年（上条真-創作）

厚狹高、下関第一高は出品のみ

※平成5年8月21日～22日 於・山口市民会館 主管校・西京高（金子）

☆6月18日 総合開幕式典慶祝書道吟 中村女子高・書、吟「戌辰の作」

☆28校 107点出品 ☆常栄寺・安田周山老師「無位の真人」

☆部門会議…激論の末、従来の参加（祭り）から大作による競争（作品発表）の場へと変わり、額装のみで会場効果を考えることになった。

☆全総文（埼玉）出品参加 高水高2年（藤本智恵-隸書） 美祢高2年（中村こずえ-創作）
大津高、多々良学園高は出品のみ

※平成6年8月25日～28日 於・下関市立美術館 主管校・豊浦高（新谷）

☆6月17日 総合開幕式典慶祝書道吟 小野田工高・書、聖光高・吟「中庸」

☆22校 74点出品 ☆講話は中止

☆部門会議…フェアな審査と合議の徹底、地区委員選出（岩見屋、荒瀬、有富、松田、井上、佐川） 宇山棲霞先生宅にて名硯、古筆、模本などについて研修

☆全総文（愛媛）出品参加 山口高3年（下川秀昭-創作） 熊毛北高3年（藤谷昌代-創作）
下関西高3年（城戸裕子-仮名） 防府高3年（三時史子-創作）

※平成7年11月25日～26日 於・岩国市民会館 主管校・岩陽高（島田）

☆6月16日 総合開幕式典慶祝書道吟 下関西高・書、中村女子高・吟「吉田松陰辞世句」

☆26校 74点出品

☆部門会議…教員展の作品形式の多様化を考える

☆全総文（新潟）出品参加 徳山高3年（折戸公彦-創作） 下関西高3年（間山聡美-仮名）
香川学園高2年（山下由紀子-創作） 小野田工高は出品のみ

※平成8年11月15日～17日 於・サンライフ防府 主管校・防府高（有富）

☆31校 110点出品

☆部門会議…新理事長選出（古屋元子） 審査員（古谷、国本、米谷、井上、松田、理事長）
講評者（河合、松田、理事長）

☆全総文（北海道）出品参加 防府高3年（友安聖子-木簡） 下関西高3年（角 琴乃-創作）
高水高3年（小畑恵美-隸書） 中村女子高3年（後根恵美香-草書）

※10年間を振り返って

*高校生らしさは発揮できつつあるか？エネルギーの爆発は感じられるか？

*雅印の制作はようやく全県に定着してきましたが、一部に遊印、校印、印なしの作品が残存しています。作品の隅々にまで創造する意識を持ち、丁寧な指導が期待されます。

*乏しいクラブ予算の中から数種類以上の額を購入し、作品形式の異なった展示にしましょう。

*「手本」の介在問題は永遠のテーマかも知れません。一見上手で大人びた作品が果たして高校生の今を表現しているのでしょうか？指導者の意識改革による新しい工夫、辛抱強い指導法の開拓がまたれるところです。

写真専門部

元 理 事 長 藤 川 明 徳
(徳山高等学校教諭)

最近の山口県高校生写真部門の活動は目を見張るものがありました。特に、昨年の全国総合文化祭（北海道）で写真の仲間が2名、一人は全国3位以内、もう一人は全国10位以内と言う輝かしい評価を得ました。全国大会では、全国から選ばれた作品の中からさらに上位の優秀な作品を表示することで、お互いに、美に対する目を養おうとの配慮から、このようなランク付けをすることとなりました。その最初の回に、このような結果を得たことは大変名誉なことと思います。

次に山口県高文連写真部の活動の軌跡を振り返ってみます。
10年前のころ、「高文連」の体制が整えられました。何事も初めは大変で「高文連」が生まれるまで、また、生まれた当初に係わられた先生方は大変な苦勞がありました。その頃の「高文連」の意識は「相互の交流を深め」「参加することに意義」などの言葉が紀要の随所に見られるように写真部の活動も“和気あいあい、文化の祭典”を目指し、競争ではなく楽しく作品発表する機会を得ることに主目的が置かれていました。ところが、「高文連」の予算的な裏付けも得て本格的な活動が開始され、全国での発表の場が設定されていることが知れ渡ると、より高いものを目指し、運動部と同じに全国大会出場に向けて切磋琢磨することとなりました。全国大会出展を選ぶ審査会でもある展示部門展示会（美術、書道、写真）の審査は厳しく、外部の審査員によって審査して全国に通用する作品を選んでもらいました。このような努力が良い結果を生んだと言えます。



過去10年の全国大会出場の結果を下に記しました。

<注> ◎…最優秀 *…優秀 ※…奨励					
平成2年（山梨・甲府大会）	岩陽	岩陽	柳井	柳井	萩商
平成3年（香川・坂出大会）	岩陽	※岩国工	柳井	田布施工	三田尻女子
平成4年（沖縄・那覇大会）	※柳井	宇部	宇部工	小野田工	美祢工
平成5年（埼玉・大宮大会）	※柳井	徳山工	小野田工	美祢工	
平成6年（愛媛・松山大会）	※柳井	柳井	小野田工	美祢工	徳佐
平成7年（新潟・新潟大会）	※柳井	小野田工	美祢工	美祢工	美祢工
平成8年（北海道・札幌大会）	徳山	*小野田工	小野田工	小野田工	◎美祢工
平成9年（奈良・奈良大会）	熊毛北	南陽工	小野田工	美祢工	美祢工

上記のように、全国大会出場校が限られた数校に独占される状況は、写真部としては歓迎すべきことではありません。より多くの生徒諸君から幅広く、また、それぞれの独自の美点から応募してもらい、その中から全国に通用する優秀な作品が選ばれることが望ましいと考えられます。

上記のように、回を重ねるごとに山口県のレベルは上昇し、遂に、昨年は頂点に立ちました。この輝かしい成果は偶然ではなく、それなりの努力が行われていました。素人の顧問ばかりですから、顧問・生徒諸君も一緒になって勉強することから始めました。外部の講師による技術講習会、モデル撮影会などを企画して全体のレベルUPをはかったりしたことが良い結果に結び付いたと思います。

しかし、写真部の現状は良いことばかりではありません。写真は活動すればするほどお金がかかります。白黒写真だけでなく、高価なカラー写真も全国大会では年々多くなり入賞も目立ちます。とにかく、写真部は金喰いクラブです。そのために現在、生徒数の減少に伴い生徒の会費圧迫から廃部を迫られている状況です。時代の流行もあります“誰でも撮れる写真”の時代に入り、生活の中に浸透して、誰もがアマチュアのカメラマンになってきました。それだからこそ、写真部の活躍の場があるとも言えます。これからもレベルを落とさないよう頑張っていきたいと思っています。

囲碁専門部

理 事 長 竹 内 洋 春
(小野田高等学校教諭)

I) 変革・組織

昭和62年4月1日に山口県高等学校文化連盟が結成されました。その1年後、全国高等学校文化連盟に全国高等学校囲碁連盟が一部門として加わるのを受けて、更にその1年後、山口県高文連に囲碁部門が誕生しました。県高文連囲碁部門第1回大会は平成元年10月29日(日)に山口高校で全国高文連囲碁部門第2回大会の予選を兼ねて開催されました。第1回大会開催に際して、実質的には山口県高等学校教職員囲碁連盟(高囲連=阿部昭典会長・防府西高校校長、会員数485名)がその運営を担当した。初めての大会とあって、黒瀬孝泰理事長を中心として6回の準備会議を重ね山口高校に事務局を置き、高囲連理事会の先生(33名)全員が大会実行委員を担当して順調に進行し、盛会のうちに終了しました。

平成2年度から理事長校に事務局を置き、校長が部会長を勤め、原則的に2年ごとの持ち回りとなりました。平成元年度から平成5年度まで部会長と理事長を置き、運営は高囲連理事会の全員で当たりました。平成4年度頃から県高文連囲碁部会規約の検討に取りかかり、平成6年9月7日から規約が施行されました。したがって、高文連囲碁部門は平成6年度から高囲連と連携しながらも独立した組織となりました。

年度	回	理事長校	部 会 長	理 事 長	参加生徒数
平成	1	宇部鴻城	西村 昭正	黒瀬 孝泰	73
	2	徳 山	田中 克	川崎 長門	60
	3	徳 山	新庄 幸雄	川崎 長門	83
	4	下 関 西	小田 正弘	伊藤 秀男	80
	5	萩	松木 嗣夫	中川 義弘	63
	6	萩	石村 源吾	長井 貴宏	63
	7	小 野 田	原田 哲矢	塩谷 敏彦	50
	8	小 野 田	原田 哲矢	竹内 洋春	56
	9	防 府	松本 凱行	井口 秀是	...

規約の一部を紹介すると、目的は「県高文連規約3条に則り、伝統文化としての囲碁をとおり、高校生の文化活動の発展、振興に寄与することを目的とする。」事業は「1. 県総合文化祭囲碁部門大会兼全国高校総合文化祭県予選等の囲碁大会の開催 2. 県総合文化祭への参加 3. 高校囲碁指導者の研修会等の開催 4. その他、本会の目的達成のため必要な事業」

役員は「部会長(校長)、※副部会長(教頭)、理事長、副理事長(※前理事長)、常任理事(岩国・柳井・周南・山防・長南・下関・長北の7地区から1名ずつ)、理事(各加盟校の囲碁指導者1名、事務局および高囲連から若干名)」となっています。(※は平成8年度改定)

II) 事業内容

(1) 県総合文化祭囲碁部門大会 兼全国高校総合文化祭県予選

大会は毎年10月下旬に事務局を置く学校で開催されました。級段位認定を先行するハンデイ戦の変則リーグ4回戦で行われ、認定基準に従って認定状が授与されました。団体戦は男女別に3

名の成績の合計によって決められました。第1回大会から終始この大会要項で開催されました。また、全国大会代表選抜戦は認定戦の3回戦までの成績と棋力を勘案して代表選抜委員が協議のうえ選手を選抜し、オール互選対局での勝者が代表権を獲得します。選抜戦の名称や人数は全国大会の実施要項に従い変化しました。平成4年度第4回大会までは、A組（互選）、B組（ハンデイ戦）でそれぞれ男女1名ずつ計4名の代表を選びました。平成5年度から全国大会で個人戦を名人戦（互選）と称し男女1名ずつ、新たに団体戦が加わり男子2名、女子1名の合計5名を代表として選びました。また、平成8年度は名人戦を単に個人代表決定戦としました。

（2）県高文連総合文化祭

県総合文化祭総合開会式で囲碁部門は平成4年度から慶祝展示を行いました。内容は初心者コーナーで指導対局、県総文祭、全国総文祭囲碁部門大会の写真や記録、囲碁の歴史、囲碁のルール、囲碁の楽しみ、全国各地の高校囲碁部の活動紹介などでした。展示場所の広さなどの状況で内容も異なってきますが、前年の理事長校が担当しているようです。



碁部門第8回大会対局風景

（3）県高文連囲碁部門研修会

平成4年度から1月下旬と2月上旬の間に実施されるようになりました。平成4年度の内容は、午前中プロ棋士と高校教諭との対局をプロ棋士による大盤解説、午後はプロ棋士による直接多面対局指導でした。内容は、直接多面対局指導だけの場合や、全国大会に出場する生徒を参加させる場合などいろいろです。

Ⅲ） 全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会

全国高等学校囲碁連盟が昭和63年に全国高文連囲碁部門として、第1回大会（東京大会）を開催したのは平成元年1月22日でした。県高文連に囲碁部門が誕生したのは平成元年4月だから第1回大会には不参加でした。第2回全国大会からで、10月に県予選を実施し、翌年1月の全国大会に出場するようになりました。平成4年度第5回大会までA組（互選）、B組（ハンデイ戦）の個人戦だけでしたが、平成5年度第6回大会は名人戦（個人戦・互選）と、新たに団体戦（ハンデイ戦）が加わりました。平成6年度第7回大会から他の部門に合わせて8月に実施されるようになりました。県予選が10月ですから3年生と新入生には全国大会に出場する機会がなくなりました。また、スイス方式で順位が決められ、第7回大会からすべて対局は互選となりました。

山口県選手はよく健闘してきましたが、特に上位入賞者を紹介しておきます。

- * 第3回大会 <個人戦> 女子A組 優勝 三木 京子（徳山）
- * 第4回大会 <個人戦> 女子A組 第4位 三木 京子（徳山）
- * 第5回大会 <個人戦> 女子A組 第2位 三木 京子（徳山）
- * 第6回大会 <団体戦> 第4位 佐間裕之（山口）・原智彦（山口）・杉尾直美（光丘）
- * 第9回大会 <個人戦> 女子 第4位 今井由美子（宇部女子）

放送専門部

理事長 青木 幸子
(山口農業高等学校教諭)

<放送部門の発足>

平成6年4月、山口県高文連の放送部門が発足しました。放送活動は、各学校において、部活動であったり、委員会活動であったりして、組織化されないままに実施されてきました。その中で放送コンテストや研修会への参加校が多くなるにつれ、高文連加盟への声が強くなり、県下各方面の御理解と御協力を得て、平成6年度から加盟し、放送部会の発足に至ったのです。

豊かな創造性と未来への展望を持つ人間としての成長を目指す高校生の放送活動の振興を目的とし、併せて、山口県高等学校における芸術文化活動の発展向上に寄与することを目標にした放送部門です。各学校が技術を競い、情報を交換し合うことによって、相互に感銘し合って、自己啓発の道しるべとしての成果があがることを目指しています。

<放送部門のあゆみ>

第1回の放送部大会が平成6年11月6日、山口県立西京高等学校で行われました。参加校16校 参加人数56人、参加作品4作品。当日、大会には100人以上にのぼる生徒と、顧問の先生方がおいで下さり、静かな緊張の中で大会がスタートしました。全国総文の放送部大会にむけての選考を兼ねる大会であったため、アナウンス部門・朗読部門という個人の発表を目的とするものに加えて、ビデオレター、オーディオピクチャー（ラジオ制作）という部員の力を総結集しての作品発表の部門も設けました。放送活動を通して「心のふれあいの場をつくること」「放送部活動にかかわる仲間同志の交流を深めること」という本大会の目標に心から賛同下さって、山口放送からアナウンス課長の勝津正夫さんと、テレビ制作部次長の城菊子さんとが審査員としておいで下さいました。

アナウンス部門、朗読部門各3名、ビデオレター、オーディオピクチャー部門各1作品が全国大会参加推薦をうけましたが実力迫伸、さらなるレベルアップを期待してと、審査員の講評は、研修会へと様変わりし、発声発音練習、アナウンス原稿の書き方、作品制作のポイントなど、多岐にわたる具体的指導を受け、生徒・顧問ともに大感激いたしました。高校生ならではのフレッシュでエネルギッシュな作品がひしめきあう、そんな第2回大会をめざして、第1回大会は幕を閉じました。

平成7年に入ると、6月16日下関市民会館大ホールで開催された県高文祭総合開会式から、放送部門の参加がスタートしました。総合開会式の進行を下関西高校放送部員が担当し、そして慶祝演奏においては長府高校放送部員が、軽妙かつウイットに富んだアドリブをまじえてのインタビューでつないでいく、下関地区の放送部員の活躍によって、総合開会式は見事な盛り上がりを見せました。日頃の放送部活動は地味で目立たないものだけれど、練習の成果を発揮できる場を持つことができ、大きな自信につながったと生徒達は感動の面持ちで語っていました。

全国総文祭・新潟大会は8月7日～8日の2日間、新潟県弥彦村の弥彦文化会館で全国総文祭が開催されました。山口県代表の生徒達は、はじめての全国大会であったにもかかわらず堂々とした見事な発表を行いました。中でもアナウンス部門では、山口県立山口中央高等学校の二川愛さんの「スポーツアワー～炎のストッパー・津田恒美投手～」が奨励賞を受け、同じく山口中央高校のオーディオピクチャー部門の作品「風船爆弾」が奨励賞を受賞しました。一つの県から2

つの奨励賞というのは、大会初めての快挙ということもあって生徒達は大喜びでした。

第2回の放送部大会は、山口中央高校において11月5日に実施されました。20校75人の参加があり、中でも男子生徒の参加が目立った大会でした。アナウンス部門においてはDJ顔負けのアナウンスで会場を沸かしてくれる生徒、朗読部門ではしっとりとした大人の語り口で皆を唸らせた生徒と、バラエティに富んだ作品が多かった事が2回大会の特色でした。オーディオピクチャー部門の山口中央高校作「ザ・山口弁講座」は会場を笑いのるつぽと化し、ビデオメッセージ部門の野田学園高校作「山口発・映画制作の夢」は、会場を溜め息と感動の場に化しました。超高校級の作品に接したという思いが、皆に一種のカルチャーショックさえ与えたのでした。

平成8年度の県高文祭総合開会式は、萩市民会館で行われましたが、ここでも放送部員が大活躍でした。第2回大会でDJ顔負けのしゃべりの上手さをみせつけてくれた萩高校の男子部員が大会の進行を行い、その堂々たるアナウンスに皆が感動いたしました。萩高校放送部員がインタビューをはじめ音楽4部門発表会の総合司会も務めてくれました。

全国総文祭・北海道大会は8月8日～9日の2日間、札幌市の「かでる2・7」を会場に開催されました。放送部門が発足してから、各校間での交流の機会が増え、山口県選手団という雰囲気の中で札幌の地に乗り込んだ大会でした。雰囲気の良いさも影響してか山口県団は絶好調で、アナウンス部門で山口中央高校・石丸由香さんの「ザ・山口弁講座」が奨励賞、萩高校・井町陽治君の「クリスとマイケルのお昼のにこにこ放送局」が特別賞、オーディオピクチャー部門で山口中央高校の「ザ・山口弁講座」が同じく特別賞を受賞することができました。全国の高校生達のユニークかつレベルの高い作品や発表に大いに刺激されたと生徒達は語っていました。

第3回の放送部大会は、平成8年11月10日山口中央高校で実施されました。21校74人と年々参加数が増加し、レベルの向上が感じられる大会でした。アナウンス部門においては、話すことの大切さに重きをおき、アナウンス原稿にも個性豊かなものが目立ちました。朗読部門は全国大会奈良大会の意向により、奈良を舞台にしたものという指定があったため、例年になく苦労があったようですが、努力の跡が大いに感じられる仕上がりでした。アナウンス、朗読部門より選ばれた各3名と、ビデオメッセージ部門・野田学園高校、オーディオピクチャー部門・山口農業高校が平成9年8月の奈良大会に向け、最後の仕上げに入っているところです。

<研修会について>

第1回の大会のあと生徒交流会を行い、各校の実状発表と自分達の抱える問題が吐露されたのですが、年に一度皆で集まり、放送技術の向上を図る機会をもって欲しいという希望が多く出されました。そこで放送部門理事が集まり、春休みに研修会を実施する事を決めました。第1回は日本放送作家協会理事長・西澤實先生による「ドラマ制作について」の講演を、第2回はNHKチーフアナウンサー・生熊雅夫アナによる「はなし方の実践講座」を行いました。たくさんの事を学ぶことができたのですが、さらに実践的練習方法を研修したいという要望を受け、第3回は、生徒と顧問がともに学ぶ「はなし方講座」をテーマに放送部研修を実施しました。生徒同志の交流と技術アップの一石二鳥を目指す研修会をきっかけにさらなる飛躍を誓い合いました。

将棋専門部

理事長 弘 中 敏 之
(下松高等学校教諭)

< 1 > 将棋部門の設立

山口県高等学校文化連盟将棋部門は、平成8年度(1996年)より13番目に発足した一番新しい部門です。それ以前の高校生は、県下の高等学校にほとんど設置されているクラブ活動や、10校ほど設置されていた課外活動・同好会を通じて将棋と接していました。また、将棋は室内ゲームとして手軽に取り組むことができるので、庶民文化として高校生にも広く普及していましたが、反面、教育関係者の中で本格的に指導する機会が少なく、将棋の奥深さや歴史・作法等についてはあまり知られていませんでした。さらに、高校生を対象とした全国大会も、全国高等学校将棋選手権大会(当時は文化庁・全国新聞社事業協議会・日本将棋連盟が主催。現在は全国高等学校総合文化祭将棋部門と共同開催となっており、平成9年度の奈良大会が33回目の開催。)のみでした。こうした事情から、将棋に本格的に打ち込んでいる生徒は、地域社会に点在する日本将棋連盟9支部等の普及指導員(当時はこの名称、資格は無し)の人々を中心とした熱心な指導を受けていました。

ところが、全国高等学校文化連盟将棋部は、平成7年(1995年)に新潟県分水町で開催された全国高等学校総合文化祭から、全国高等学校将棋選手権大会と共同開催の形で参加するようになりました。その結果、高等学校文化連盟に所属していなかった山口県の高等学校将棋界は、生徒の全国大会への参加の道が急速に険しくなりました。だが、こうした事態に備えて、既に平成4年(1992年)将棋専門部設立準備委員会が、上田一人(当時山口県立宇部高等学校将棋部顧問)先生を中心に設立されていました。その委員会から、山口県高等学校文化連盟事務局に対して、また某新聞社、全国高等学校文化連盟将棋部等からも、将棋専門部設立の要請がなされました。生徒数の急減が予測される厳しい情勢のなか、関係する多方面の方々のご尽力、そして山口県教育委員会や山口県高等学校文化連盟会長・事務局の諸先生方の将棋文化に対する深い理解とご協力のもと、ついにその設立が実現されました。こうして、将棋を愛好し伝統文化の深みを追及しようと励む高校生に、全国大会での活躍を保障する体制が整えられました。



第18回山口県高等学校総合文化祭将棋部門大会兼第32回全国高等学校将棋選手権大会県予選の風景(1997.5.26於中国新聞山口支社)

< 2 > 生徒の活躍

山口県高等学校将棋連盟将棋専門部は、山口県立下松高等学校長の松村旭初代専門部会長の下、同校に事務局を設置、本格的に活動を始めました。記念すべき最初の事業は平成8年（1996年）5月26日に開催された部門大会でした。この大会は、第18回山口県高等学校総合文化祭の一環をなす部門大会と、従来から開催されている第32回全国高等学校将棋選手権大会山口県予選とを兼ねた大会となりました。その結果、男子団体では県立下松高等学校が、同個人戦では県立厚狭高等学校の金築克祐君が優勝し、全国大会への切符を手に入れました。また、団体戦2位には県立防府高等学校、同3位には県立下関西高等学校が入賞しました。個人戦では、県立宇部高等学校の藤井佳久君、同3位には県立光ヶ丘高等学校3年で前年度優勝者の武村勝寛君が入賞しました。参加生徒は38名でしたが、水準の高い対局が展開されました。運営には、周防地区常任理事の古谷清和、長門地区常任理事の尾崎明弘両先生および、に本将棋連盟山口県支部の方々が携わりました。また、この大会運営の反省を踏まえ、同年11月10日には、高校将棋界のレベル向上と役員の資質向上を目指した研修会も催されました。

全国大会では、上述の金築克祐君が3位入賞を果たす目ざましい活躍をみせました。その後、彼は、某新聞社主催の高校棋戦で全国準優勝、第5回全国高等学校文化連盟将棋新人大会で4位入賞を勝ち取りました。正に、専門部設立初年度の門出に花を添える活躍でした。

最後に、10周年という大きな節目を迎えた山口県高等学校文化連盟の一層の発展を祈るとともに、当専門部として高校生の文化活動の場の保障・拡大に僅かでも寄与できたと願っています。



第20回全国高等学校総合文化祭将棋部門
(1996.8.7～8於北海道江別市)

男子団体系下松高校チーム（左端二人目より岡田祐季・澄田長直・友森康彰君）と男子個人の金築克祐君（厚狭高校1年 当時）

右端 古谷清和常任理事（熊毛南高校） 左端 筆者



第5回全国高等学校文化連盟将棋新人大会
(1997.1.24～25於長野県伊那市)

左 藤井佳久君（宇部高校2年 当時）

右 金築克祐君（厚狭高校1年 当時）

中国地区高等学校文化連盟規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本連盟は、「中国地区高等学校文化連盟」と称する。

(目的)

第2条 本連盟は、中国地区高等学校（盲・聾・養護学校の高等部を含む。以下同じ。）における創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第3条 本連盟は、前条の目的を達成するために中国地区高等学校の文化活動を積極的に推進する。

(組織)

第4条 本連盟は、中国地区各県の次の連盟をもって組織する。

鳥取県高等学校文化連盟

島根県高等学校文化連盟

岡山県高等学校芸術文化連盟

広島県高等学校芸術文化連盟

山口県高等学校文化連盟

第5条 本連盟には部門別の専門部を置くことができる。

第2章 役 員

(役員)

第6条 本連盟に次の役員を置く。

会長	1名	理事	1名
副会長	1名	監事	2名

(役員を選出)

第7条 役員を選出は次の通りとする。

- (1) 会長、副会長は理事会の互選により選出する。
- (2) 理事は、中国各県高文連会長及び事務局長をもってあてる。
- (3) 監事は、会長が推薦し理事会で承認する。

(役員の職務)

第8条 役員の職務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し、課長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 理事は、理事会に出席し、本連盟の事業について審議する。
- (4) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第9条 本連盟の役員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。

中国地区高等学校文化連盟規約

- 2 補欠役員の任期は、前任者残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第10条 本連盟の会議は、理事会とする。

- 2 理事会は、年1回以上開催し、会長がこれを召集する。
- 3 理事会の議長は、会長がこれにあたる。
- 4 理事会は、つぎの事項を審議し決定する。
 - (1) 会務の運営、執行に関する事項
 - (2) 規約の制定及び改廃
 - (3) 予算、決算
 - (4) その他の重要事項

第4章 会 計

(経費)

第13条 本連盟の経費は、会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第14条 本連盟の収支予算は、理事会の議決によって定め、収支決算は、会計年度終了後監査を経て次の理事会で承認を得なければならない。

第15条 本連盟の会計年度は、4月1日に始まり、翌3月31日に終わる。

第5章 事務局

(事務局)

第16条 本連盟の庶務、会計その他の事務を処理するため事務局を置く。

- 2 事務局は、会長県に置く。

第6章 その他

第17条 本連盟の規約の執行に必要な事項は、理事会の議決を経る、ものとし、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

- 2 その他問題が生じたときは、理事会等で協議する。

(付則) 本規約は、平成4年10月15日に議決し、平成5年4月1日から施行する。

申し合わせ事項

平成4年10月15日、岡山市で開催された第2回中国地区高等学校文化連盟関係者合同会議において、連盟規約議決に際し、次の事項を全会一致で申し合わせた。

- 1 会費は当分の間、各県10,000円とする。
- 2 理事会には各県文化行政担当者の出席を要請し、指導助言を受ける。
- 3 会長は下記により輪番で選出する。副会長は次期会長県より選出する。

平成5年度より 広島－山口－島根－鳥取－岡山

歴代役員一覧

	昭和62年度	昭和63年度		平成元年度
会長 副会長 〃 〃	五十部 益一 江後 昭三 藤田 田正 宏 津 人	五十部 益一 安本 良一 山本 八夫 津 田正 造 人	会長 副会長 〃 〃	五十部 益一 安本 良一 山本 八夫 津 田正 造 人
理事 (岩 国) (柳 井) (徳 山) (山 防) (宇 部) (下 関) (長 北)	江後 昭三 山本 八造 内藤 昌文 増野 克巳 井上 洋 河中 正登 大石 力生	安本 良一 佐々川 武 内藤 昌文 増野 克巳 井上 洋 河中 正登 松 原 弘	支部長 (岩 国) (柳 井) (徳 山) (山 防) (宇 部) (下 関) (長 北)	安本 良一 佐々川 武 田中 益克 五十部 一 井上 洋郎 橋本 賢郎 松 原 弘
理事 (演 劇) (器楽・合奏) (合 唱) (吹 奏 楽) (マーチング・バトン) (日 本 音 楽) (吟詠剣詩舞) (美術・工芸) (書 道) (写 真)	野村 英美 河中 正登 阿部 邦二 増野 克巳 古谷 信成 津田 正人 山田 夫 村川 齋 堀江 重文 江後 昭三	野村 英美 河中 正登 藤本 野克 古谷 信成 津田 正人 山田 夫 村川 齋 堀江 重文 安 本 良夫	専門部会長 (演 劇) (器楽・管弦楽) (合 唱) (吹 奏 楽) (マーチング・バトン) (日 本 音 楽) (吟詠剣詩舞) (美術・工芸) (書 道) (写 真) (囲 碁)	作間 源治 橋本 賢信 藤本 正巳 増野 克成 古谷 信人 津田 正夫 山田 昌章 福岡 克巳 増野 良正 安本 昭正 西 村 昭
専門部理事 (演 劇) (器楽・合奏) (合 唱) (吹 奏 楽) (マーチング・バトン) (日 本 音 楽) (吟詠剣詩舞) (美術・工芸) (書 道) (写 真)	西村 司雄 松永 忠子 中尾 綾子 重廣 昭雄 花村 慈照 中野 靖子 辛嶋 樹 岸 勤 桑野 忠勝 環乃 琢司郎	西村 司雄 松永 忠子 中尾 綾子 重廣 昭雄 花村 慈照 中野 靖子 辛嶋 樹 岸 勤 桑野 忠勝 環乃 琢司郎	専門部理事 (演 劇) (器楽・管弦楽) (合 唱) (吹 奏 楽) (マーチング・バトン) (日 本 音 楽) (吟詠剣詩舞) (美術・工芸) (書 道) (写 真) (囲 碁)	西村 司雄 松永 忠子 中尾 綾子 重廣 昭雄 花村 慈照 中野 靖子 辛嶋 樹 岸 勤 荒瀬 宏 環乃 琢司郎 黒瀬 孝泰
監 事 〃	小松 英三 村 川 齋	小松 英三 村 川 齋	監 事 〃	小松 英三 福岡 昌章
事務局 長 総務 庶会 務計	中井 征夫 甲田 俊夫 古屋 元子 矢 儀 嗣	窪田 恵夫 甲田 俊夫 古屋 元子	事務局 長 総務 庶会 務計	窪田 恵夫 甲田 俊夫 古屋 元子

歴代役員一覧

	平成 2 年 度				平成 3 年 度				平成 4 年 度				平成 5 年 度			
会 長 副 会 長 〃 〃	繁 富 健 治 安 本 良 夫 小 田 田 正 弘 津 田 正 人	繁 富 健 治 竹 林 陸 夫 小 田 田 正 弘 津 田 正 人	石 井 秀 和 竹 林 秀 夫 小 田 正 弘 小 田 正 弘	石 井 秀 和 宇 多 村 英 山 田 田 稔 小 田 田 稔												
支 部 長 (岩 国) (柳 井) (徳 山) (山 防) (宇 部) (下 関) (長 北)	安 本 良 夫 佐 々 川 武 田 中 富 健 繁 中 正 治 河 本 賢 登 橋 本 賢 郎 松 木 嗣 夫	竹 林 陸 夫 藤 本 幸 健 新 庄 富 治 繁 田 悟 寛 山 浦 木 夫 三 木 夫	竹 林 陸 夫 藤 本 幸 健 新 庄 富 治 石 井 秀 和 山 田 田 稔 三 木 夫	宇 多 村 英 築 田 本 井 相 石 井 尾 石 中 尾 三 松 浦 木 松 木 嗣 夫												
専門部会長 (演 劇) (器 楽 ・ 管 弦 楽) (合 唱) (吹 奏 楽) (マーチング ・ バトン) (日 本 音 楽) (吟 詠 剣 詩 舞) (美 術 ・ 工 芸) (書 道) (写 真) (囲 碁)	作 間 源 治 橋 本 賢 郎 藤 本 正 俊 下 河 谷 信 成 古 津 田 正 人 京 野 武 雄 高 野 橋 真 下 河 本 俊 郎 安 田 中 克	三 戸 更 生 三 浦 寛 譲 宇 多 村 郎 下 河 谷 俊 成 古 津 田 正 人 京 野 武 雄 田 中 河 本 俊 郎 下 藤 幸 慎 新 庄 幸 雄	三 戸 更 生 三 浦 寛 譲 宇 多 村 郎 下 河 谷 俊 成 古 津 田 正 人 京 野 武 雄 田 中 河 本 俊 郎 下 藤 幸 慎 小 田 正 弘	三 戸 更 生 三 浦 寛 譲 野 相 古 本 谷 信 成 五 十 部 益 一 京 野 武 雄 田 中 村 經 孝 黒 松 瀬 木 嗣 夫												
専門部理事長 (演 劇) (器 楽 ・ 管 弦 楽) (合 唱) (吹 奏 楽) (マーチング ・ バトン) (日 本 音 楽) (吟 詠 剣 詩 舞) (美 術 ・ 工 芸) (書 道) (写 真) (囲 碁)	西 村 忠 司 松 永 尾 綾 子 中 重 廣 村 雄 花 中 野 照 辛 嶋 子 岸 瀬 樹 荒 乃 司 環 崎 長 郎 川 崎 門	三 藤 真 人 松 永 尾 忠 雄 中 重 廣 村 照 花 中 野 子 中 野 行 師 井 井 夫 荒 瀬 川 宏 藤 川 崎 徳 川 崎 門	三 藤 真 人 松 永 尾 忠 雄 中 重 廣 村 照 花 中 野 子 中 野 行 師 井 井 夫 荒 瀬 川 宏 藤 川 崎 徳 川 崎 門	三 藤 真 人 松 永 尾 忠 雄 石 椎 花 中 子 中 野 行 中 野 行 師 井 井 夫 荒 瀬 川 宏 藤 川 崎 徳 川 崎 門												
監 事 〃	伊 藤 彰 高 橋 真	伊 藤 彰 浦 川 幸 弘	藏 岡 武 史 浦 川 幸 弘	藏 岡 武 史 浦 川 幸 弘												
事 務 局 長 総 務 部 庶 務 計 画 会	窪 田 恵 甲 中 古 夫 田 邑 屋 元 中 古 子	斎 藤 眞 久 甲 中 古 夫 田 邑 屋 元 中 古 子	斎 藤 眞 久 甲 中 古 夫 田 邑 屋 元 中 古 子	斎 藤 眞 久 甲 中 古 夫 田 邑 屋 元 中 古 子												

歴代役員一覧

	平成6年度	平成7年度	平成8年度
会長 副会長 〃 〃	桂雄三 宇多村讓 山田穰悟 小田亮	桂雄三 吉天村洋 天野勝穰 小田亮	森本絃史 吉天村洋 天野勝弘 本村範
支部長 (岩国) (柳井) (徳山) (山防) (宇部) (下関) (長北)	宇多村讓 築田英昭 繁富健治 桂尾光三 中荒卷大 石村源吾	吉村洋 矢倉茂 繁富健治 桂尾光三 中荒卷大 石村源吾	吉村洋 矢倉茂 森本絃 中尾光 松井忠 石村源
専門部会長 (演劇) (器楽・管弦楽) (合唱) (吹奏楽) (マーチング・パトン) (日本音楽) (吟詠剣詩舞) (美術・工芸) (書道) (写真) (囲碁) (放送) (将棋)	岩本敏美 荒卷大拙 藤本健慎 繁富信治 古谷一成 五十部一 西岡尚之 相本晃 繁富健 岸野保 石村源 福田明	小林堅而 荒卷本大 藤本健 繁富信 古谷一成 五十部一 西岡尚 今橋靖 繁富英 橋本哲 原田雄 桂松三	小林堅而 荒卷本大 藤本雄 繁富研 古谷一 五十部一 西岡尚 今橋靖 桂本英 橋田哲 原藤 竹松朔 旭
専門部理事長 (演劇) (器楽・管弦楽) (合唱) (吹奏楽) (マーチング・パトン) (日本音楽) (吟詠剣詩舞) (美術・工芸) (書道) (写真) (囲碁) (放送) (将棋)	石井末雄 松永忠雄 石島栄子 椎木浩二 花村慈照 中野靖子 藤井美恵子 師井俊夫 荒瀬宏 伊藤健 長貴 青幸 宏子	石井末雄 松永忠雄 石島栄子 椎木浩二 花村慈照 中野靖子 藤井美恵子 庄島信基 荒瀬宏 元永百 塩谷合 青敏 彦子	石井末雄 松永忠雄 石島栄子 椎木浩二 花村慈照 中野靖子 藤井美恵子 庄島信基 荒瀬宏 元永百 竹内合 青幸 敏子 之
監事 〃	藏岡武史 浦川幸弘	浜村悦巳 中村祥典	浜村悦巳 中村祥典
事務局 総務 庶務 会計	中邑立夫 角中悦太 松永康 〃	中邑立夫 角中悦太 田村知 〃	中邑立夫 角中悦太 田村知 黒昌

山口県高等学校文化連盟10周年記念誌
山口県高文連10年の歩み

平成10年 3 月31日

発 行

山口県高等学校文化連盟

編 集

山口県高等学校文化連盟事務局

total creative works



CREATE co.,ltd.

